



蘭使日本紀行

十三

ル3
1138
13



特
冊 3
號 1133
卷 13



姓翁ノ意ノ如リ賊船頻リニ阿蘭船ヲ遮ルテ
ラハ我輩去テ韃靼ニ赴カニノミ
此説ヲ主張スルヲ以テ彦右工門殿ハ臺灣ノ景
況及ヒイニデーキ國姓翁ノ船ヲ掠奪セシラス
ルノ請願ヲ江戸ニ上申セリ此時野母山番所ヨ
リ報道スニ船ヲ見ルトイニデーキ許可ヲ得テ
コムハドルレヒレニ命シ三船ヲ用意シ商官ホ
ーゲンウーウレヲ海ニ出セリ則チ知ル此二船
ハゾーレレ及ヒジールルルルルヲ少載
シテ伯帯比亞ヨリ東ルナリホーゲンウーウレ

寄スル一書アリ。第三船ヒユエンスケルケ船
ジリリフハニリトシテ載ス。是イニデーキハ代
役ナリ。近日着岸ス可シ。但今尚海上ニテヲ見ル
トヲ得ス。皆奥島前ニ投錨ス。
イニデーキ銅商ニ就テ銅ヲ求ム。其價大ニ飛騰
ス。蓋シ歲豊ナラス。食料ノ價騰貴シ。隨テ抗丈ノ
給料増加シタルニ準スルナリ。國姓爺ノ支配ニ
非サル支那船時々長崎ニ到着ス。支那暹羅及ヒ
他地ノ事ニ関スル阿蘭至長ノ許可杖ヲ具セサ
ルヤシ。八月四日一船アリ。ハイソリス港ヨリ来

ル。其旅行券ハ使節ヤコブカイサレノ附スル所
ナリ。更ニ二船アリ。暹羅ヨリ来ル。ユジア在留和
蘭司計ヨアソフハシレキヨリ附スル所ナリ。
其文ニ曰リ。アナコダマトモラスレハユジ
アニ於ケルモトレシノ支揮官ナルオカダシノ
ラトレノ船ヲ以テ海岸探索スルノ旅行中ナレハ
余代理トナリテ之ヲ保證ス。國姓爺ニ属シタル
支那船ナリトメ取り押ユルナケル一リ。又之ヲ
拒絶スルナカカルヘシ。此船ニハ蘆末セラモ来
布片敷包。黒糖。カラツブス。油。ナラリ。東埔亭

臺灣新奉行
ハシラシクシヨク船

五

桃ヲ積ミ。黒奴二十三人。支那人五十四人ヲ載
日本ニ赴リナリ。決シテ阿蘭船ヲ舫リル
其後一快走船アリ。長崎港ニ向テ駛来シ。近接ス
ルニ及テ。旗ヲ掲ケ。初先ツ之ヲ高ク擧ケ。次テ之
ヲ旋回ス。又其旗下ニ吹流シテ。凶カヌイゾ
キ之ヲ見テ。以テ為ラリ。是必ス船内貴人アルヲ標
スルナルヘシト。則チ小舟ヲ急進シタルコト。想像
ノ如クナラス。末船ハハルマニユスクレナリ
ハフオデツセ。君ヲ送ルナリ。此人臺灣領事ニ任
セラレ。ツレテリキコイ、トニ代ルヘリ命セウ

レタルナリ。クレシク曰ク。千六百六十一年五月
二十二日。伯帯比亞ヲ出帆ス。ルネン船ヲ伴フ
此船ニハヤコブカセシブロード。印土領事ヨリ
ノ撰定ニテ。臺灣郷地ノ支配役ニ任シタルヲ報
スル所ナリ。然ルニ海ニ相失シ。往ク所ヲ知ラス
後其船葡萄船ニ逐驅ケラレ。丈ニ危難ニ遇ヘリ。依
テ東埔寮ヨリ。瑪港ニ来ル。隊長ロエイ、ヌハロ
ツトレ。プーレシナム。地方ニテ之ヲ見出シ。船
及ヒ貨物ヲ掠奪シ。クレシクハ多貨ヲ得。且葡人
十七人。支那人七人。黒奴十一人ヲ装ヌル所ナリ。

コウチーレーの島に達シ。保養シ且ツ清水ヲ
船内ニ汲入タリ。土人ノ説リ所ヲ聞クニ由テ臺
灣ノ危急ナルヲ知ル。七月三十日臺灣地方ニ達
セリ。コイ、ジョノ小舟シツケヒトテズズゾー
ヲ導水者トシテ。支那船ニテ氣出シ。クレンクニ
報知スルヲアリ。曰ク。吹シテ臺灣ニ近接スル
勿レ。國姓爺三百船ヲ海上ニ張ルヲ以テ。宣ミク
速カニ日本ニ赴リヘシト。此時クレンク導水者
ニ任シテ。印工領事ヨリノ書類ヲヒラキ。ジ
城内ニ達セシム。是甚ク危險ナリト。虽モ葡人十

七人ヲ許シ。キエエラフカニ。赴カシメ。一二支那
人ヲシテ。書ヲ其地ノ主長ニ捧ケシム。報ヲシ。依
ニ日本ニ向ハントセリ。然ルニ暴風ニ遇テ。暗昏
天氣中一依堤ニ着セリ。極メテ危險ナリシ。戸意
外ニ神助ニ依リ。八月二十日船ヲ保存シテ。長崎
ニ着セルナリ。町奉行彦右衛門殿。即日新臺灣領
事ヲ上陸セシメリ。本船ハ多量ノ水ニ濡サルヲ
以テ各種ノ貨物悉ク腐敗セシラス。
譯官インデーキニ告テ曰ク。彦右工門殿ハ。新臺
灣領事ノ詔ニ由テ。臺灣景況ヲ詳知セント欲シ

新臺灣

其後和蘭使節ハ長崎在留ノ支那商人ノ口ヨリ
聞クテアリ。サユアハ國姓爺ノ復スリ。臺灣進駐
ノ一ヲ謀ルテ久シ。而シテ此事ヲ唯僅カニ其親友
某トニ密議スルノニ。國姓爺此秘事ヲ察覺シ。策
ヲ運ニ密カニ其機會ヲ待ツ。然ルニサユアハ自
ラ苦慮スル所アリテ。一戰以テ諸軍ヲ威服シ。セ
シラシ。ジア城ヲ押領シ。自ラ其主ト爲ニテ欲ス。

四六

其後博多候
近侍多ク
奴僕少ク
許テ從テ
カヲ一ヘ
ラニド。及ヒ
ホ一ケラシ
デテ見ント
ス。此候水
丈ノ舞躍。又
飛踊スルヲ
見テ。大ニ
樂ソリ。出
島ニ至

遺事ヲ纏述セシテ。懇請ス。其奴僕ヲ多ク伴ヒ。
盡飾ヲ諱張スルハ。是日本人ノ押柄ニシテ。外人
ヲ威嚇スルノ慣手法ナリ。
其後和蘭使節ハ長崎在留ノ支那商人ノ口ヨリ
聞クテアリ。サユアハ國姓爺ノ復スリ。臺灣進駐
ノ一ヲ謀ルテ久シ。而シテ此事ヲ唯僅カニ其親友
某トニ密議スルノニ。國姓爺此秘事ヲ察覺シ。策
ヲ運ニ密カニ其機會ヲ待ツ。然ルニサユアハ自
ラ苦慮スル所アリテ。一戰以テ諸軍ヲ威服シ。セ
シラシ。ジア城ヲ押領シ。自ラ其主ト爲ニテ欲ス。
偶饑饉ニ遇テ。支那軍卒中饑死スル者日ニ加ハ
ル。此困難ヨリ不和ヲ生シ。サユアハ多船ヲ以テ
密カニ臺灣ヲ襲ハシ。欲シ。又國姓爺ハ他ノ陣
營ヲ攻撃セント欲ス。然ルニ謀洩レタルヲ以テ。
國姓爺ハ復テ高山ニ誘ヘ。許多ノ兵ヲ以
テ圍ミ。サユアヲシテ殘酷ナル終焉ヲ執ラシメ
タリ。
其後博多候。近侍多ク。奴僕少ク。許テ從テ。カヲ一ヘ
ラニド。及ヒホ一ケラシデテ見ントス。此候水丈
ノ舞躍。又飛踊スルヲ見テ。大ニ樂ソリ。出島ニ至

會館ニ入りタルヲ以テ。インデーキハ大ニ之ヲ榮養ナリトシ。又近來江戸ヨリ長崎ニハリク。ル中領地ヲ通過セシニ。厚遇ヲ請タルヲ感謝ス。又之ヲ誘テ新臺灣領事クレンクノ居ニ至ル。岩ニナルゴル及ヒ他ノ樂器ヲ弄シテ。歡ヲ迎テ。又其需ニ應シテ。其婦人ロイヒウス及ヒテ。一ルヲ室ニ呼ヘリ。此候博多ニ歸ル後。ホルレニボヘン。及ヒニ。ハポルト。伯帯此亞ヨリ着シ。教砲ヲ放テリ。翌日博多候ヨリ。インデーキニ酒四樽及ヒ。二臺ヲ寄贈セリ。一ハ魴。一ハ乾タル海藻ナリ。

日本鑄金工。鳥賊骨ヲ細末トシ。唾液ヲ和シ。水銀ヲ極ニテ打延ハシ。以テ人ヲ欺リナリ。鑊。鉛。剛。錘。錫。銅。及ヒ銀ヲモ。此法ニテ水銀上ニ浮ハシム。唯釜ノミハ沈ム。他ハ皆銀色ヲ取ル。火ニテ燒リナリ。然レモ傍人ノ体ニ害ヲ為シ。麻痺セシムルト。惡臭トシ。免カレサル所ナリ。日本ハ銀ヲ鑄スルニ銀ニ水銀ヲ塗リ。鳥賊骨ニテ磨擦スルナリ。インデーキ支那船ヨリ一書ヲ得タリ。此船フロカニタラシ。近邊ニテ奪ハル。巨賊ヲ以テ保証

シ。蘭人三十人ヲ載ス。アミラーレヤフブカー
ノ命ニテ。其旗ヲ用ケ。然ルニ強暴風ニ遇テ水
ニ漫リ。ガレ。小舟ハ。ピスカドレヌ島ノ方ニ
流失セリ。此船ヲ其方ニ寄シタルニ。南西ノ
雨風ニ吹流サレ。止ムヲ得ヌ之ヲ避テ。長崎ニ至
リタルナリ。此理由ナルヲ以テ。蘭船王ハ。支那人
十人ヲ船中ニ出シタリ。此船ノ到ルヲ見テ。長崎
在苗ノ支那人大ニ驚駭セリ。彦右工門殿事情ヲ
領解セリ。何トレハ。國姓爺ノ臺灣島ニテノ所
業残酷ナルハ。明亮ナレリナリ。此掠奪船ニハ。精

米二百石ヲ載ス。支那人ハ。高カニ奪ハレタル船
ヲ取り戻サントスルノ意アリ。且ツ蘭人ヲシテ
米ヲ賣ラサラシメント欲ス。蓋シ帰航セントス
ル船。食料欠乏スルヲ以テ。之ヲ供シ航行ヲ安全
ナラシメント謀ルナリ。イナデ。キ稍困却スル
ハ。長崎奉行自ラ事ヲ決スルヲ能ハス。一々江戸
ニ上申シ。其指令ヲ仰ケハ。其間和蘭人ニモ支那
人ニモ無事ナラシテ命シタレハナリ。
其後平戸候。及ヒ有馬候。立派ナル行装ニテ。イ
デーキ。及ヒクレシクヲ訪フ。丁寧ニ之ヲ饗應シ

タレハ。翌日答礼ナリトシテ進物ヲ寄贈セリ。右工門殿ヨリ掠奪ノ船ヲ放解スヘキヲ命セリ。抑モ此船ニハ米ノ叶更ニ硝石百三十四袋及ヒ多数ノ錫及鉛ヲ載セリ。然ルニ奉行ハ支那人ノ詐言ニ迷テ了。日本ヨリ注文シタル米ヲ送りタルト云フヲ以テ名ハス。而シテ其實ハ米ノ国姓爺配下ノ賊人ヲ救ハシカ爲。硝石ハ彈藥ニ供シ。鉛ハ彈丸ヲ製スル爲ナルヲ顯然ナリ。此諸品固ヨリ日本商家通用スヘキ所ニアラザルナリ。其後又トコロデハルト東京ヨリ来リ。アエナ

ハ近方ニテ支那ヨリ貨物ヲ掠奪セルナリ。此船多額ヲ載セリ。胡椒鉛錫米象牙アルカテ一ヘン麻布ヲ積メリ。葡人二十人黒奴四十人支那人十人ヲ載ス。是此方ニ来ラントシテ荷卸シタル船ニ残リタル者ナリ。作右工門殿ハ長崎第一紳士ナリ。出島和蘭商會ニ来テインデーヤヲ訪フ。博多候ノ為メニ鞆及ヒ手綱ヲ借ラントテ求ム。蓋シ日本工人ヲシテ之ヲ擬造セシメント欲スルナリ。作右工門インデーキト接話スルノ始ニ於テ曰ク。余親懇接話

セシトスルノ念ヲ懷キテ久シ。然ルニ許可ヲ得
ス。又機會ヲ得サリシナリ。今ヤ二事適合セリ。則
チ博多候ハ機會ヲ與ヒ。長崎奉行彦右工頭殿ハ
許可ヲ與ヘリ。訪問ノ榮譽ハ平戸候有馬候及ヒ
博多候ニ由テ固定シ。阿蘭人附與スル單純ナル
親交ニ出ル所ナリ。此ノ如キ榮譽ハ日本政府ニ
於テ東印土商會ヲ特別ニ厚遇スルハ確證ナリ。
日本將軍和蘭ノ實意ヲ信スルニ非レハ。豈ニ諸
侯身ヲ下シテ訪問シ。且ツ進物ヲ寄贈スルナリ
ラシヤ。又長崎奉行ノインデキノ為ニ懇切

親愛ナルナリ。阿蘭商事ノ固定シ。且ツ進捗シタ
ルヲ以テ明知スヘキナリ。阿蘭人今ヤ國姓爺ト
紛乱中ニナリ。故ニ勉メテ公平ヲ持シ。損害ヲ蒙
ムルナク少ナカラシメント既慮ス。然ルニ其後
江戸ヨリ將軍ノ名ニテ執政ヨリ命スル所ナリ。
決シテ支那人ヲ取押ユルナク勿レ。薪水ヲ缺カシ
ムルナク勿シ。之ヲ扶助スルヲ怠ルナク勿レ。海賊ノ
為ニ支那船ノ困難ニ遇フヲ見逃スナク勿レ。國
姓爺ト阿蘭人トノ間ノ不和ヲ鎮靜スルノ策ナ
カラスヤ。

イッデーキレナリ。及リル立合ニテ作石工
門ノ説ニ答テ曰ク博多候平戸候及ヒ有馬候ノ
訪問ヲ受ケ進物ヲ賜フテ國ヨリ意外ニ出ツ東
印土商會大ニ光榮ヲ感荷シ之ヲ尊敬スル所ナ
リ又長崎奉行ノ恩惠ニ依リ將軍政府ニ對スル
ノ諸事意ヲ達スルヲ得テ商事進捗ヲ得ルハ感
佩シテ大慶スル所ナリ故ニ百事長崎奉行ノ命
ニ從テ戻ルルナク茶敬導奉スヘキナリ但シ曾
テ江戸ニ於テ長崎奉行ニ約シタル支那船ヲ襲
ハサルトノ事國ヨリ取消ヲ得ヌト雖モ國姓

爺ト和蘭人ト互ニ友誼ヲ結ハントスルニ於テ
ハ一番ニ番^{日本船ト云フガ如ク}領承結納スルニ非
レハ能リス抑モ國姓爺間戦ヲ報告スルナク
又先許ノ理由ナクシテ四万人ノ兵ヲ以テ臺灣
ヲ急襲スルハ余ク彼ノ風習ナリト云フハ異代
異亂又甚クモト云フヘシ考ニ大ニ損害ヲ蒙リ
タレハ今全カク盡シテ之ヲ償ハシテ欲スルハ
固ヨリ當然ノ理ナリ夫レ臺灣ノ景況ハ既ニ二
國之ヲ長崎奉行ニ報シ其書將軍政府ニ上申セ
リ政府必ス蘭人ノ意ニ任セ國姓爺ニ向テ怒ヲ

暗ラサシテナリテ許諾セシハ信シテ疑ハサル所ナ
 リ敢テ前約ニ背キ不都合アルニ非ケルナリ之
 ラ要スルニ國姓爺ノ残酷ナル戦争ニ替ルニ穩
 柔ナル和睦ヲ以テスルナリ彦右工門殿ノ説、如
 クセシニハ日本將軍ノ命ニテ支那船ヨリ國姓
 爺ニ送ルヘキ現在及ヒ後来ノ貨財及ヒ金銀ヲ
 悉ク長崎奉行ノ手ニテ蘭人ニ附與シ以テ損害
 ナラバハシケル為メニ賣ラシケルカ或ハ將軍此
 策ヲ甘受セヌハ蘭人ハ貧困スルカ為メ止ムヲ
 得ヌマニルナリ南京ニ赴キ到ル所停泊スルニ支
 那船ヲ掠奪押領セシナリテ企テノミ
 紳士作右工門殿ハインデイヤノ各語ヲ熟思シ
 阿蘭人ノ支那船ヲ掠奪セシラスルノ意ヲ領解
 セリ然レモ將軍ヨリノ指令ヲ受リルニ非サレ
 ハ敢テ之ヲ施行スヘキナラス江戸政府ヲ尊
 奉スル所以ナリインデイヤ又曰ク東印土高會
 ハ全カラ盡シテ大ニ日本將軍ノ為ニスル所ナ
 リ然ルニ國姓爺ノ事ニ就テ之ヲ謀ルニ若シ之
 ナラバ等閑ニセシ和蘭商會復々可ラサルノ衰毀ヲ
 招クヘシ支ナ火ノ如シ其始ニ於テ之ヲ撲滅セ

長崎奉行
對談
三

サレハ。一屋ヨリ全街ニ子ヲマテ灰燼ト為スヘ
キナリ。因循スルニ業ニテ敵勢増カシ。威カラ張
リ自在ニ多載ノ船ヲ放テ。猖獗ヲ逞フスルニ乃
テハ其言ヲ加フルイ愈大トナル。是ニ至テ之ヲ
制スルナラ豈ニ容易ナラズヤ。

作右工門殿ハイニテキノ説ヲ理アリト信ス
然レモ今長崎ニ停泊スル支那船ヲ襲ハントモ
テ將軍ノ命ニ從ハサル中ハ恐ラリハ奉行ヨリ
多數停泊スルノ阿蘭船ヲ取押ルノ外ナカルヘ
シイニテキ此推量ヲ難シテ曰ク阿蘭船ニハ

定期アリ海上ニ出ツ可シ。豈ニ支那船ヲ襲フカ
為ニ時日ヲ遅延セフヤ。阿蘭人ハ歸帆ニ執心ス
ルヲ以テ他ヲ顧ミスニテ進行スヘシ。然レモ各
種ノ軍船臺灣ニアリ又凡ソ船ヲ入ルニ適スル
支那諸港ニ在テ相往復スルナリ。此等ノ船ノ所
為如何預レソ測ルヘキニアラス。故ニ一説ナシ
長崎ニ向テ装スル者ノ如シ。作右工門殿此説ヲ
聞テ丈ニ解得スル所アリ之ヲ長崎奉行ニ報シ
孰議シテ佳報ヲ得セシムヘシト。
此ノ如クスルノ後與兵衛様江戸ヨリ歸着セリ

イニギキ長
時奉行訪

イニギキ則テ設官ニ因テ其安着ヲ祝セシム
彼之ヲ謝シ告テ曰ク江戸ニテハ國姓爺臺灣乱
暴ノ者ニ長崎ニハ一ノ蘭船ヲ存セストノ評判
アリタリ今之ヲ見レニ其非ヲ知ル是大ニ喜ッ
所ナリ又九月二十八日ヲ以テ高業ヲ聞クヘキ
カ評セリ

又七艘ノ日本番船退去セシハ決シテ惡徵ニハ
非サルナリ今南船ハ一奪船トノ間ニ僅カニ三
艘ヲ附スノニ蓋シ從前ハ一船毎ニ一番船ヲ附
セタル所ナリ

九月二十七日イニギキニキレシハ
ニリルト共ニ所奉行兵衛殿ヲ訪テ江戸ヨ
リノ安着ヲ祝スル為ナリ且告ククレンクハ印
土會社ヨリ臺灣領事ヲ命セラレタリ然レモセ
イランジヤニ向テノ諸道ニ國姓爺ノ船ヲ配置
スルヲ以テ上陸シテコイ、トニ代ルテ得ナ
ルナリト兵衛様曰ク全江戸ニテイニギキ
ヨリ書記シテ言上シタルヲ見テ國姓爺ノ襲撃
乱暴ノ状ヲ詳カニセリ臺灣事件自後如何ヲ知
ラシテ要スイニギキ曰クハニリル君

薩摩三十三
南渡八苦海

ヲ拔テ支那地ヲ見サレノ地ニ存ヒタリ。猶餓者
ノ食ヲ得タルカ如キ思アリ。後安靜ニテ却ト臺
灣ノ間ヲ經クルニ復シ颶風ノ起ルニ遇テ諸
帆急リ破裂寸断船ニ頻リニ旋回スル者ニ漏隙
ヲ生シタレト。唧筒ヲ以テ之ヲ汲出シ乾スヘキ
ノ餘暇ナシ。更ニ海水ノ甲板上ヨリ打入ルアリ
湍船濕濡セサル所ナリ。復シ浮ヒ能ハサルニ似
タリ。更ニ困苦ヲ大ナラシムル者アリ。夜ニ及テ
前橋浪ノ為ニ流失シ僅カニ一檣船トナレリ。更
ニ各所潰崩スル所アレト。船體旋回ヲルカ為ニ
之ヲ修理スルヲ得ス。猶一海水ヲ以テ一海水ニ
混リカ如キトシ。

四〇

是ニ於テ下段ノ帆ヲ其終ニシ。風ニ任スニ若カ
スト決セリ。偶第ニ番人外方ニ在ル者一地ヲ見
出シタリ。然ルニ之ヲ報スルノ前ニ於テ船ハ早
ク堤ニ密接セリ。海水深シ。船暗礁ニ衝突スル
三回ニ及テ船體破碎シ。六十四人ノ中三十六人
ヲシテ他ハ皆溺没セリ。夜業ヲ報リタル者亦
死シ。船主アムステルダムノレーニールエケヘルト
エゾーニ亦死者中ニアリ。敗船中ヨリ麥粉一苞。

塩蔵肉一桶少許テント酒一樽ヲ拾ヒ得タリ是
漂人ニハ大ニ緊要品ナリ又船ノ碎材ヲ拾ヒ集
メ以テ一天幕ヲ張ル暴風及ヒ猛雨ヲ避ル爲
ス此地名ヲ知ラス人民ノ有無ヲ知ラス唯暗黒
氣中ニ在テ一船ノ来ルヲ見ス

難船ノ第二日一男子ヲ見ル彼ニ近寄ルハキキ
様ニタルニ其人遁去レリ次テ他ノ三人来ル一
ハ手銃ヲ肩ニシ一ハ矢一ハ弓ヲ報ル但シ敢テ
近接セズ又次テ一強勇人来リ銃ヲ地ニ投シテ
我ヲ招ク則チ皆之ニ誘ハレテ遙カニ火ヲ見ル

方ニ進ム夜其天幕内ニ至リタルニ百人以上ア
リ頭上ニ馬毛帽ヲ戴キ四方ヲ守ル翌日騎兵歩
兵新軍勢来レリニ千人以上ナルハシ漂人ハ為
ニ大天幕ヲ張ル其主長ノ命ニテ我主簿記ヘシ
リキハリメル及ヒ舟工長舟具役及ヒ一少年ヲ
幕外ニ引キ全軍叫喚声中ニ捕ヘ這ハセテ頭ヲ
土ニ接シ夕リ幕内ノ者心寂カニ以為ク我黨亦
此ノ如ク處置セラレハシト然ルニ敢テ残酷ヲ
加ヘズ唯高麗人我黨各人ノ頸圍ニ鎖鎖ヲ掛ケ
額下ニ大鈴ヲ繫クヲ猶我阿蘭亂黨ノ巨魁ニ於

ケルカ如し。

又官吏數人。天幕内ニ入り来リ。相談話スルアリ。然レ氏蘭人ニハ何事ヲ議スルヤヲ聞知スルナシ。但シ衆皆日本ニ赴カントスルニ難船セラズ。至リタルノ意ヲ示ス。支那人アリ能ク漂人ニ注意シ少許ノ麥粉塩肉及ヒ豚肉ヲ與ヘ又水ニテ煮タル茶ヲ供セリ。此饗應ニテ稍憂傷ヲ慰メタリ。喜フテ少時ニメ不人情ナル土人出現シテ復々忽々悲哀ニ陥レリ。別々食事スルニ方テ多勢大ニ騒動シテ天幕内ニ入り来リ。各人手ニ

繩ヲ執リ蘭人ヲ誰彼ノ別ナリ。悉リ之ヲ縛シテ殺サントスルノ杖ノ如シ。而シテ我輩ヲ引テ敗船ノ方ニ導キタルヲ以テ警駭ノ念稍消セリ。土人等木材ヲ乾所ニ運ビ之ヲ燒キ鑊具ヲ放解セリ。舟士是ニ於テ高度ヲ測リ船ヲ丈シタルハキユエルハ一ルヅナルヲ知ル。三十三度三十二度中徑ナリ。高麗人等勉強シテ敗船ヲ放解シ之ヲ燒キ鑊具ヲ得ントス。既ニシテ然ニ余船ヲ燒キ盡シセリ。但此事多時ヲ費ヤセリ。我輩ニ大砲ニ強實シテ打放シ。又海濱ニテ喇叭ヲ吹キタルハ土

人等砲臺ノ為ニ皆驚ヤ走レリ。既ニソ復タ来リ。
蘭人尚屢此ノ如キヲ為ヌヤヲ疑問スルニ似
タリ。我輩彈藥既ニ盡タルヲ以テ復タ之ヲ為サ
ハルノ意ヲ示シタレハ。衆再ヒ銃具ヲ拾フテ
為セリ。

三

蘭人キユヱルハ。バルツ島ノ主長ヲ訪フテ。ト
酒一罇ヲ贈レリ。彼丈ニ其美味ヲ賞翫シテ忘レ
サルトテ悦ヘリ。主長蘭人ヲ遇スルニ極テ親切
ナリ。日ハ二回水ニテ煮シル米ヲ供セリ。且ツ之
ヲ拓テ。曾テ敗船ヲ放解シタル。罪人ヲ苛責スル

主長ハ
旅行

ノ杖ヲ觀セシム。則チ銃具ヲ其盜ミタル者ノ背
ニ縛シ。地止ニ坐セシメ。尋常少年ノ臂ノ太サナ
ル一尋許ノ杖ニテ。屢足ノ腹ノ先キヲ強打セシ
ハ。其苛責ノ法極テ残酷ナリ。
此ノ如キ苛責ヲ示ヌ後。蘭人ニ出京ヲ命セリ。騎
兵歩兵夥シク警固セリ。此日進行スルニ。四里一
小市タシ。アンスニテ汚穢ナル庫内ニ泊セリ。
復モガシ街ニ至リ。是キユヱルハ。バルツ宮殿ア
ル所ナリ。大市上ニ殆コト三千ノ軍卒アリテ。整
列ス。主長ハヘシキハ。一ノ舟士及ヒ銃手ヲ

招キ。近接セシ。何ノ地ニ赴ク者ナルヤ。問フ。
ハ。ソル教団及ヒ長崎ノ語ヲ唱ヘリ。主長點頭
ニ頷解スルニ似タリ。他ノ蘭人ヲモ四組ニ分テ
政官ヲ招キ既ニ尋問スルノ後一屋ニ止宿セシ
ム。聞リ所ニ據ル。曾テ王ノ伯父ノ父時入牢モ
ソル所ナリ。蓋モ此人甥ノ冠ヲ奪ハント謀リシ
ルニ策成ラズ。此テ終ニ此地ニテ牢居セリト
日カ定時ニ煮タル米麥粉及ヒ黒糖ノ食物ヲ賜
シリ。但モ此等ノ食物蘭人ニハ食スルニ耐サレ
ニ似タリ。故ニ唯多分ニ塩ヲ配用スルノミ。此地
ノ奉行ハ大抵七十歳許容貌大ニ威嚴アリ。察ス
ルニ国王ニ上書シ蘭人ヲ處置スルノ指令ヲ待
ツニ似タリ。然ルニ此書往復遲延セサルヲ得ヌ
蓋シ國都ハ海路十三里陸路七十里ヲ隔ツ。以
テナリ。此信ヲ待ツノ間蘭人時ニ新肉ヲ得タリ
又二人宛順番ニ他行スルヲ許サレタリ。奉行ハ
屢蘭人ヲ招キ書記ヲ命シ難船以來ノ疾病ヲ如
療セシム。其内殿ニ於テ立派ナル食膳ヲ供セリ
此ノ如キ釋教徒ノ饗應ハ大ニキリスト徒ヲ耻
カシムル所ナリ。

各般異事アル内ニ於テ尤モ顯著ナルハ主簿記
 ハ一ノル舟士及ヒ痛醫ノ一ノ本國人ニ過リル
 事ナリ此輩常例ノ如キ奉行ニ招カレケルニ座
 上多髻ノ一男子アルヲ見ル奉行問テ曰ク此人
 ヲ知ラスヤト答テ曰ク容貌阿蘭人ニ似タリト
 奉行大ニ笑テ赤髻ノ人蘭語ヲ以テ問テ汝等何
 レノ人ナルヤ何レノ地ニ旅行セシト欲スルヤ
 蘭人之ヲ聞テ一同驚カサルナリ是ニ於テハ一
 ノル一語ヲ放テ曰ク我輩アムステルダムヨリ
 伯帯比亜ニ至リ伯帯比亜ヨリ日本ニ到ラント

スルナリ然ルニ臺灣ニテ可恐颯風ニ遭テテ漂
 流ニ船ハ激浪ノ岩ニ破碎シキユ上ルハ一
 ヲニ漂着シ上陸ニテ是ニ至リタルナリ而シテ
 テハ一ノル問テ曰ク汝ハ如何ナル人ナルヤト
 此人殆ニ日本國ノ語ヲ遺忘シタルニ似テ完全
 ナルヲ得サレト答テ曰ク余ハ阿蘭テリテ村ニ
 生ルヤシヤニスザリシヨリテフレイト稱ス
 千六百二十六年ホルラニジプニ航行ニ後伯帯
 比亜在苗ノ印度領事ノ命ニテアムステルダム
 ヨリ東印度ニ向ヘ大ウラエルケル船ニ乗テ日

本ニ赴カントスルニ偶逆風ノ為ニ高麗ニ到リ
 リ。缺乏スルノ新水ヲ得ニトス。依同寮ジルクケ
 ルリトスワー。及ヒ一アムステルダム人ヤン
 ビーテルスヘルハーストト共ニ。端舟ニテ上陸
 シ。稍養生セント謀レリ。然ルニ三人共多人ニ取
 卷カレ。陸路王城ニ導カル。自末衣服食料ノ給照
 ヲ得タリ。逗留スルノ數年ナレ。既絶テ一船ノ日
 本ニ赴リ者ナシ。之ヲ懇願スルノ數回ニ及ヘト
 モ。此國ニハ舊來ノ習慣アリテ。外人ヲ國內ヨリ
 出スヲ禁セリ。凡ソ漂流シタル蘭人皆此ノ如ク

ナルヘシ。誰カ能リ志ヲ伸フルヲ得シヤ。内エ
 テフレ。更ニ添テ曰ク。我同寮二人ハ十七年前
 ニ。韃靼兵高麗ヲ襲フタル中ニ。戦死セリ。以テ全
 語ヲ翻訳シテ。奉行ニ示ス。奉行之ヲ政府ニ捧ケ
 リ。然ルニ奉行。新旧交代スヘキノ期ニ及ヘリ。奉行
 ハ。三軍毎ニ交代スルハ。高麗政府ノ定制ナリ。舊
 奉行ハ。蘭人ヲ遇スルノ厚ク大ニ好意ヲ表セリ。
 又。其上達。奇ニ於テ。標冬ノ為ニ。各人ニ一衣。長笛
 及ヒ。上指。各一足ヲ與ヘ。更ニ。隱シ。置タル書冊ヲ

渡シ多量ノ油ヲ附與シテ夜用ニ供セシメ又約
 ス政府ニ建言シカラ盡シテ周旋シ日本ニ渡航
 セシムルノ計ヲ為スヘシト新奉行ハ別意ノ人
 ニテ漂流蘭人ヲ遇スルニ苛酷ヲ以テセリ其始
 テ至ルヤ千二百五十四年一月ノ初ニ於テ鐵籠
 ナリ蘭人ニ興ツル所極テ薄少ナリ且ツ自意ニ
 任セテ捕人ヲ苦役ヌ則チ毎日二人ヲ册出セシ
 ム而ノ尚嚴ニ注目シテ或ハ堤ニ繫リノ小舟ヲ
 奪テ夜中竊カニ遁逃スルコトアラシヤト慮ル四
 月ノ末日六人夜中壁ヲ越テ出ントシタルニ忽

チ番卒ノ悟ル所トナリ信彌以テ警ヲ衆兵ニ報
 ス舟士及ヒ他ノ五人再ヒ捕ハル
 モリカク街外ノ一小村ヲ距ルコト遠カラサル所
 ニテ一船ヲ裝スルアリ二人ヲ之ニ載セテ海上
 ニ出リルニ幸フミテ橋及ヒ帆ヲ登ツルニ忽チ
 倒ル再ヒ之ヲ登テ準備成レリ其橋再ヒ倒ル之
 ヲ修理スル所以ヲ知ラサレラ歎ス漸々堤ニ向
 テ近寄ルニ方テ偶一高麗船多人ヲ載テ進ミ来
 ルアリ其近接スルニ及テ五蘭人躍テ之ニ入ル
 他ノ一人ハ前ノ船ニテ漂流シ去テ住リ所ヲ知

ラス既ニ皆上陸シ蘭人ヲ奉行ノ所ニ引ケリ五
人共ニ重キ錠ニ繫カレ且ワ一板ヲ頸ニ架シ一
手ヲ板上ニ縛シ裸尻ニテ地上ニ坐セシノ更ニ
柱ニ縛セリ而シテ他ノ蘭人ヲ招キ之ヲ見物セシ
ム奉行ハ詔官ハ正ルテコレニ因テ向テ此道
逃ノ策ハ他ノ仲間ノ知ラサル所ナルヤ或ハ一
同同意ニテ此計ニ及ビタルヤ小舟水ヲ鉄クテ
以テ如何ヲ大海ニ航シテ日本ニ達スルヲ得ン
ヤ捕人答テ曰ク我同寮絶テ此遁走ノ計ヲ知ル
者ナシ我輩残酷ナル處置ニ過テ餘口ニ死ニ就

三

高麗政府ヨリ
其残酷

カンヨリト寧ク海上ニテ死スルヲ勝レリト思
ヒ一途ニ自由ヲ得ンヲ求メテ運ヲ天ニ任セ
ンハ試ミタルノミト無慈悲ナル刑吏五蘭人ノ
間ニ立テ指ノ太サノ一尋強ノ圓杖ヲ以テカラ
極ツテ各人ノ尻ヲ打ツテ二十五ノ膏ニ五
週間草刈ノ後ヲ官ハ得ナリシ
此ノ如キ残酷ノ處置ナリタル後高麗政府ヨリ
命アリ蘭人ヲ四船ニ分テ載セ枷械シテギユ正ル
バールド島ヨリ高麗ニ送ルヘシト奉行更ニ苛
酷ヲ加ヘ双手双脚ニ枷械シ以テ其遁走ヲ防ク

若し之ヲ自由ナラシメハ或ハ船中ヨリ走り出
シテ慮レハナリ抑モ高麗人ニハ注船極テ多
クレハナリ大洋ニテ舟震揺スルノ二日加フニ
ニ逆風ナルヲ以テ進行スルヲ得ズ依テ再ヒモ
カニニ歸ル蘭人復テ前日ノ牢ニ入レリ

キユエハバールド島ハ周圍十五里北方ニ入海東
船舶停泊ニ安全ナリ高麗ノ南ニ角アル斗出ス
ルノ十三里曇天ニハ大ニ危険ナリ航路暗礁連
續ニキユエハバールド港ノ外他ニ碇泊スヘキ
地ナシ東及ヒ南東ヨリ暴風ニ過テ日本海ニ逐

ヒ出サレ其方ニ漂流レ將ニ沉没セリトスキユ
エハバールド島ハ極テ活計ニ優ナリ人員多ク
牛馬亦タ多シ中部ニ高山アリ頂上ニ樹木多ク
高ク雲ニ入ル禿頭ノ山少ナシ谷ニハ米大麥ナ
クテ産ス

五日ノ後風向變ス故ニ港ヲ出テ前回ノ如ク困
苦セリ四船ニテ進行ス夜ニ入り高麗ニ達セリ
曉ヲ俟テ上陸ス茲ニテ馬ヲ雇フテ蘭人三十六
名ヘ一ナシ樹ニ入り再ヒ相會セリ抑モ舟行ニ
ハ四組ニ分ケタレハナリ四船ハ四所ノ舟士ノ

管スル所ナリ。イ、ア、ニ、一泊レタニ。銃手バ
ウリユスヤニ。ス、ザ、一、ユ、ハ、ン、ビ、ニ、ル、メ
レ、ド、死セリ。此人難航以來。一時モ健康ナル。一
無リシナリ。警固者埋葬ヲ命セリ。更ニ蘭人ヲ引
テサコシヤニ。グ、及、ヒ、テ、オ、ン、ガ、フ、諸街ヲ過キ。又
大城イノバンニヤニギアニ。ス、^過此城ハ高山上
ニ築ク所ナリ。更ニ進テ小街チユニゲ。又大街セ
ンゲ。一ヲ見タリ。是數年前ニハ高麗王ノ居城ナ
リタルニ。今聖王ノ明^渡シタリ。後ハ渡^アニ。泊^スチ。後カト^リ未街^{ナリ}進行
東^早ニ。王^ニ記^スル諸地^及リ。軍^ヲイ^キス。城^ニ及^チオ^リテ。過^テ王^ノ城^ヲ見^ル。著^シク。茲

〇

至テ和蘭^ノ官^ウエ^ルテ。一^レニ面會セリ。漂流
人等ハ全旅行ノ事情ヲ述ヘ許可ヲ得テ日本ニ
航セ^レテ。懇求ス。蓋シ早晚本國ニ歸リ。妻子ニ
面會セ^レテ。冀フナリ。此懇願^ヲ聽セ^ラレ^ス。曰ク
國王外人ヲシテ決^シテ歸國セ^シメ^ス。高麗ニテ
死スルヲ^ノ外他策^ナキナリ。
其後各蘭人銘々ニ王家ノ記章ノ烙印アル小木
札ヲ與フ。各人姓名職務部屬ヲ高麗文字ニテ記
シ彫刺ス。ウ^エル^テ一^レハ各人ニ命ヲ傳ヘテ
高麗式射銃ノ法ヲ学ハシム。此ノ如ク軍事ヲ演

習スルニ韃靼人ニハ常例ノ如ク高麗ヨリ定額ノ
 財ヲ輸送セサルヲ得ス此時國王蘭人ヲナンテ
 甘シヤシトシテ堅城ニ送りタリ是ニオール
 ヲ距ルテ七里ニアリ高丘上ニ築ク緊要時ニ方
 テハ國王此地ニ至ルテアリト云フ韃靼人ニオ
 ーシヨリ帰途此地ヲ過グ舟士長ヘリキヤンス
 ザーニアムステルダム人及ヒ銃手ヘンリキフハン
 テンボス相謀テ森林ヨリ焚材ヲ伐採セシテ企
 テリ蓋シ韃靼騎兵ニ發覺セラレシ為ナリ則テ
 韃人ノ補助ヲ得テ本國ニ帰ルノ策ヲ求ントス
 ルノ意ニ起ル因テ韃人ノ通過スルヲ待テ其間
 ニ飛出タリ然ルニ高麗ノ護兵ニ悟ラレ忽チ捕
 ハレ入牢セラレタリ是ニ於テ同謀人或ハ自裁
 セシカ或ハ死刑ヲ待ツヘキヤテ決意シ能ハス
 或人王府ニ上申スルアリテ漂人ホヲキユエル
 バード島ニ置ヤレトス但シウエルテフレ
 ハ高年ニ及ヒ復タ外行シ能ハカハヲ以テ三蘭
 人ノ高麗語ヲ解スル者ニ命シテ事ヲ報知セシム
 三人ヲ分テキユエルバード島ニ送り一家ヲ
 附与ス此中三十三人ヲ存ス回奉行ハ蘭人ヲ嫌

フニ非ナルモ新奉行ハ尤モ苛酷ナリ。商人ヲシテ山ヲ越テ三里外ヨリ焚材ヲ採集セシム。又曩ニ政府ヨリ賜フ所ノ衣服ヲ又返納セシメリ。商人ハ極寒ニ惱ミ且ツ虱非常ニ蕃息シ。全身ニ散蔓ス之ヲ除クニ由ナシ。然ルニ幸ニメ終ニ八字者ニ許シテ日々一半ハ内ニ居リ。一半ハ他ニ出ルヲ得ヤシメタリ。是ニ於テ僅カニ衣食ノ給與ヲ得ルニ及ヘリ。蓋シ高麗人ハ乞食スルヲ禁ヤス。又高麗ニハ僧徒夥クアリテ。施與ヲ好ムハナクナリ。元來土人ノ性善良ナリ。加之近來各人皆少

高麗饑饉

ノ高麗通語ヲ解スルヲ以テ聊カ志ヲ述フルヲ得タリ。抑モ歐洲人ハ大ニ印度人ニ親密スレハナリ。千六百六十年キールラベインガ新奉行來テ旧奉行ニ代ル。新奉行ハ極テ寛恕ナリ。屢告テ曰ク。カヲ尽シテ商人ヲ自由ニ歸國セシメシメテ謀ラント。此奉行在任ノ第二年ニ高麗大饑饉トナレリ。是又旱ノ為ニ田畝總テ乾涸シタレハナリ。人民食物缺乏。死者日々千人ヲ以テ數フ。或ハ野草ヲ食スルアリ。或ハ樹皮ヲ咬ムアリ。唯低地ノ

こ少許ノ穀物ヲ産スレバ。忽チ之ヲ充尽ス。全高麗人將ニ死滅セントスルノ状ナリ。此ノ如ク一般ノ困苦ナルヲ以テ。隨テ商人難渋スルヲ愈甚タシク。王命ニテ配賦スルノ給料モ全クハ手ニ落チサレニ至レリ。

政府ヨリ命アリ。阿蘭人二十二人他ヲ以テ今存者スルヲ三分シ。十二人ハサイシニシテ五人ハ

シユ午エシニ五人ハナトモニシニ移ラシム奉行

年毎ニ交代スルヲ以テ。千六百六十四年ニ

慧星現ス。一ハ南東ニ一ハ南西ニ見ル。高麗人

ニ驚キタリ。蓋シ曾テ慧星ヲ見タル年於テ。韃靼

人大ニ驚ヘ。又日本人ヨリ兵ヲ送リタレハ十

リ阿蘭人ニ問テ曰ク。慧星ノ現スル何ノ理由ナ

ルヤ。歐羅巴人ハ何等ノ説ヲ唱フルヤ。答曰ク。学

理ヲ以テスルニ此ノ如キ光ハ決シテ妖事ノ徴

ナルニアラス。然レバ庸人ハ古来尚或ハ悲哀ヲ

スヘキノ前徴ナリトシ。或ハ戦争或ハ饑饉或ハ

傳染病アリトスルナリト。壬水ニ驚キ諸地ニ令

シテ兵備ヲ嚴ニシ。海岸ノ家屋ニテハ夜照スル

ヲ禁セリ。

既ニ阿蘭人ハ遁走スヘキノ機會ヲ得タリ。則チ其始相謀テ徐々ニ貨幣ヲ貯蓄シ。一漢舟ヲ購求シ以テ近隣諸島ニ出テ綿ヲ賣ル。島人大ニ喜ブ。終ニ一廢船ヲ求メテ密カニ帆碇及ヒ食料ヲ備ヘ夜中不時ニ出帆ス。此時瘍医マテウスエボウケルコルネリスゴルウスフリーシ及ヤンビーテルスゾーレンデフリリスハシユケユシヨリ出テサイシレヴニ至リ。國人ニ其企謀ヲ語シタルニ皆同意ス。此事速カニ準備セリ。蓋シデフリリスハ大ニ航行ニ熟セリ。則チ千六百六十六年九月四

日解纜ス。此行八人ナリ。則チヘンデリキハーメ
ルゴヘラルドジョオスユスヤンビーテルスリー
ンゲフリリス。デルリトヤントグーシマウラウス
エボウケルネリス。ルネリス。フリーンヘネジ
クナスクレルケ。及ヒジオオニユスコヘルトスフ
ーシナリサイシレヴ。壁ヲ踏ヘタルハ。汐將ニ于
ントシ月低キ時ナリ。高麗ニ近接シタル一小島
ニ着ス。暗ニ乗シテ軍艦ノ間ヲ通過シ。日出ニ及
テ見出サレサル為ニ帆ヲ返ハセリ。軍艦ニ置進
行シテ復タ高麗ヲ見サルニ至レリ。舳ヲ南東ニ

向ケ強逆風ヲ犯ス此ノ如クニメ五島ノ西ニ至
レリ則ケ港内ニ入りタルニ風勢漸劇甚トナルヲ
以テ終ニ投錨セリ茲ニ一船ヲ見ル六人之ニ乗
ル皆双刀佩ヘリ既ニ逃接スルニ及テ一人上陸
セリ其所為怪シムヘキヲ以テ再ヒ海上ニ出
トシタルニ前ノ船前路ヲ遮リ帆ヲ卸シ港ニ入
ルヘキヲ諭スニ似タリ蘭人オ喚テ曰阿蘭院長
崎ト既ニ陸ニ逃クヤタレハ太索ニテ繫キ番船
ヲ附テ警護セリ日本今來テヨリ高麗船ヨリ二
人ヲ捕ヘテ上陸ス陸上大ニ騷動シ中夜大船我

三

傍ニ來ル之ヨリ報知スル所アリ阿蘭人五艘長
崎ニ停泊セリト日本人ヨリ食物ヲ無ヘタルヲ
以テ大ニ氣カヲ奮起セリ高麗船ニハ甲板ナク
僅カニ藁席ヲ敷テ風雨ヲ防クノミ九月十四日
ニ長崎ニ達セリ高麗ニテ入牢スルヲ十三年ニ
ノ今日出島ニ達セリ尤モ驚ク可キハ此ノ如キ
遠路ヲ艱船ニテ航シ來ルハ自ら救ハントスル
ノ一念ニ出ル所ナルモ抑モ勇偉ナル哉
セルゲレン長崎ヨリ日本將軍ニ謁見セントス
ル旅略ヲ詳誌スヘシ十二月開商日ニ諸般ノ乾

七二二ノ號

藥。程。口。鮮。硝。子。鏡。水。干。皮。麝。香。及。他。ノ。雜。品。ヲ。銀。
銚。ニ。入。レ。テ。阿。蘭。商。館。ノ。廊。下。中。道。ノ。臺。上。ニ。列。ス。
此。高。館。三。百。區。及。ヒ。四。道。ニ。分。ツ。出。島。ニ。ア。リ。出。島。
ハ。一。水。ヲ。以。テ。長。崎。ト。分。界。ス。上。層。ニ。ハ。東。印。度。商。
會。ノ。奴。僕。住。居。シ。下。層。ニ。貨。物。ヲ。置。ク。數。房。ニ。分。ツ。
長。崎。紳。士。ノ。立。合。ニ。テ。將。軍。ノ。託。章。ア。ル。封。印。ヲ。貼。
ス。レ。テ。リ。此。紳。士。ニ。リ。阿。蘭。商。館。ニ。テ。日。口。銀。器。ヲ。
テ。結。購。ス。ヘ。キ。所。ナ。リ。

長崎ハ警クヘキ高山ノ間ニアリ此山ハ磚牆或
ハ堅石ニテ巧ニ開鑿スル所ナリ各家自在ニ水

ヲ導ク得長崎人其術ニ巧ニナルモ抑モ天設ノ
地理大ニ之ニ適スルナリ其地米麥及ヒ各種ノ
蔬菜ヲ多産ヌ十一月ノ頃長崎紳士軍裝シテ市
中ヲ通行スルナリ各人軍裝適意ノ粧飾ヲ加
フ華美ナラサレナシ但シ敢テ放銃スルニアラ
ズ是火災ヲ戒ルルナリ此地兵士威權アリ商人
敢テ之ヲ正視スル者ナシ若シ失レ頭ト手ヲ地
ニ接シテ敬礼スルニアラサレハ直チニ強打セ
ラルヘシ尤モ遊ケ嫌フヘキハ小兒ヲ殺スナリ
女子ニ於テハ之ヲ宥恕セス而親多子アリテ養

育ニ艱々中ハ藁繩ニテ縛シ之ヲ水ニ投ヌ男兒
ハ官家ニテ養育シテ軍役に死ツ

蘭使水路江戸ニ向フケルニ北東風強吹スルカ
為ニ高麗海ニ漂流セリ燈臺ヲ見テ慶島港内ニ
入レリ此燈臺ハ往時日本人ノ許可ヲ得テ葡人
ノ建設スル所ナリ是貿易自由ヲ得ケル中ナリ

慶島ハ葡人ノ始テ足ヲ入レシ地ナリ日本少年
アングェルナル者嘗テ罪ヲ犯シ捕人ノ苦責ヲ適
レシカ為ニ一日日本僧家ニ入レリ又之ヲ遁レテ
午五百四十^ナ年葡人ゲオルギウスアルハレシウ

スニ支揮タルノ商船ニ托シテ麻六甲ニ至リイ
ソイトヲラニシスキユスサレリウス^ルテ徳憲シ

始テ慶島ニ着シアングェルノ朋友ニ交ハリ羅瑪
教法ヲ宣化スルノ機會ヲ得タルナリ後葡人慶

島ニテ貿易ヲ始メ是薩摩侯ノ居城アル地ナリ
上ニ記スル燈臺ハ上邊四角ニシテ轆轤裂ノ塊ア

リ極テ太キ支柱ニ安ス二本ノ長中副柱ヲ立テ
重キ礎ニテ支柱ニ繫着ス兼テ高キ梯ヲ立ツ其

子ハ西側ニ柱ニ挺出シ其下ニ番所アリ燈臺ノ
側ニ一二ノ建物アリ山ノ半腹ニアリ岩上ノ屋

番新ハ港ヨリ見ルニ美景ナリ各軍卒五百人ヲ
備フ常ニ海上ヲ眺望シ且ツ城内ノ兵ニ注意ス
蓋シ魔島及ヒ薩摩全國ノ安寧ヲ保護スル為ナ
リ薩摩侯ハ勇猛ナリ屢兵ヲ出シテ將軍ニ抗シ
敢テ尋常貢獻ヲ肯セス屢破ルト虽モ尚抗拒ノ
念アリ番所前ト高山トノ間ニ安全ナル停泊場
アリ此上ニ燈臺アリ市ノ北部ニアリ船舶夥シ
ク集會シ或リ堤ニ接近ス之ニ接シテ倉庫アリ
重壁アリテ水ニ臨ミ中道ニ四角ナル大門アリ
其階紐ハ蒼色ノアルドイン石ニ成ル下テ港ニ

向テ凡ク魔島ニ輸出入スル諸荷物皆之ヨリ揚
ケ卸シスルナリ町ノ北端ニアル倉庫ハ四大室
ニ成ル但シ他側ニハ二重ノ屋根アリ廊下ノ外
ニ十四大室アリ此北部倉庫ト番所トノ間ニ川
アリ町ヲ過テ港ニ入ル此川南濱ニ立派ナル税
関アリ其構造財ヲ尽シ巧ヲ極ケル所ナリ船舶
茲ニテ第二回ノ税ヲ納ケルナリ此集金巨額ナ
ルヲ軍口將軍ニ呈スルナリ
税関ニ斜對シテ一美寺アリ高ク天ニ聳ユ此寺
外ニハ屍体ヲ日本風ニテ焼クマテノ間數日預

ケ置クナリ。坊主之ヲ為ニ多金ヲ要ス。殊ニ富者
ニハ尤モ甚シシ。蓋シ屍体ヲ清淨ニシ。平日信
仰スル所ノ阿彌陀觀音。或ハ一ニ他佛ニ接近
スルニ快ナラシムル爲ナリ。此ノ如ク屍體ヲ暫
時燒カスシテ。清淨ニシテ。後ニ之ヲ燒クノ
習慣。世上ニ久シク存スル所ナリ。舊羅馬人及
ヒ希臘人ハハイランド降誕前ニハ死者ヲ處置
スルニ此法ヲ用ヒタリ。希臘演劇作者工ナリビ
テス。冥王リレカニニ呈シタル文ニ

余直ニ此土ヲ離脱ス。蓋シヨカスヲ其子ノ
屍ヲ洗滌シテ。汗及ヒ臭氣及ヒ汚垢ヲ除去ス
一シ

余知ルガ。ルガネンセルイルリールス。アー
リアニユスニ告テ曰ク。自ら身ヲ洗フ。三四
出生ノ時。結婚ノ時。及死去ノ時。是ナリ。
ヨリゲン亦此洗屍法ヲ固守スリ。ユカス。タビシ
ニ証言ス。病ニ罹リ而シテ死スルノ日ニ於テ之
ヲ洗滌シテ。正廳ニ置ク。屍體ニ膏ヲ塗ル。頭ル
尚シタキチユス。ヘロドチユス。じオトリユスシ

キユリユス^レポハボニテスナ^レテ^レシセロ^レセキスナ
ユス^レピル^レフ^レビユス^レリニアニユス^レ及^レ他^レノ希臘
及^レヒ羅典記者埃及人^ノ屍体ニ塗膏スル^ノ創意
者ナリトス此後ハ神語ニ一致ス何トナレハモ
セス^レパトリアルセンヤコブ^レ及^レヒヨセブ^レニ告テ
曰ク埃及人ニ塗膏サレタリトヨセブ^レ其侯ニ命
シ藥舗ヲシテ其父ノ屍ニ塗膏セシメリ依テイ
スライルニ塗膏セリ此ノ如クスル^レ十四日十
レハ塗膏十分ナリトス埃及人ハ十七日トス而
ナヨセブ^レハ其齡百十歳ナリ之ニ塗膏シ之ヲ柩
ニ納メテ埃及ニ送ルセキスナユス^レピル^レソ^レビユ
ス^レ証言ス埃及人ハ死者ノ内臓ヲ除キ屍体ハ拔
爾撒護ヲ盈テ以テ臭氣及^レ腐敗ヲ防ク而^レ之
ヲ家ニ貯ヘ食饈ヲ供ス

羅典詩人^ノシ^レリ^レラスイタリキユス^レ歌テ曰ク
埃及人ハ死者ヲ香料ヲ盈ル^ノ石上ニ直立シテ
葬ル^レ賓客ヲ饗應スルニ拔爾撒護ヲ塗ル^ノ骨骸
ヲ以テス更ニ屣其兩親及^レヒ朋友ノ屍体ヲ債主
ニ與スル^レフアリユシアニユス^レノ説ニテハ其
人生時ニ負債ヲ續辦^レ得サル^レハ之ヲ葬ル^レヲ

得ス又此按ル撒護ヲ塗ルニハ塩杉脂蜜蠟没藥
石灰粘土ヨリデンレリハ及ヒ硝石ヲ用フル
アリ屍体ヲ洗フハ羅馬及ヒ希臘婦人ノ為ス所
ナリパラトソコラテスニ告テ曰ク余毒ヲ服ス
ル前ニ身ヲ洗フヲ要ス蓋シ死後婦人ノ洗フハ
キ勞ヲ省クニ為ナリト

日本人羅馬人ニ倣フテ寺内ニ埋葬スルノ式ヲ
行フ凡ソ葬禮ニ使用スハキ諸物ハ死神ヲビキ
ナ寺ニ於テ貨幣ヲ以テ調達シ得ヘシ又羅馬王
ニエマホムピリウスノ制ニ依テ小兒虫産スル

片各人若チノ錢ヲユノリユレナノ金匣ニ投ス
ハシ又死者アル片ハニユスソビキナニ財ヲ納
ル但シ屍体ニ膏ヲ塗ルハ男子ノ所為ナリ

上記ノ寺ハ市中ニ向テ斜對シテ極テ立派ナル
避災庫アリ此内薩摩全国ヨリノ税ヲ納ム是毎

年一回大阪ニ送り將軍家全權ノ指揮ニ任ス死所
ナリ此建築ト水城トノ間ニ羨ナル寺アリ土人

群集參詣シテ田野山林果實蔬菜ノ豐熟ヲ俾ニ
祈合スルナリ殆ント羅馬人及ヒ希臘人ノ神ニ

祈ル式ニ同シ此輩往時異神パンヲ尊敬シ山

羊野牛足ヲ具スル畜ヲ飼ヒ田獵ヲ祈ル又南
アリ馬足ヲ具スルノパウシニ山羊ヲ献シ森林
ノ神ニ乳汁ヲ献スルカ心レ又極テ有名ナル神
アリパフキユスト称ス葡萄ヲ守護ス又ブラビ
ユスハ園圃ヲ主トリセレスハ穀物ヲ護リテオ
レアデスハ山羊ヲ司トルトスルハ牽強附會ニ
出ル所ナリ

慶島ヲ通過スル川ノ南側ニ市街アリ彼此高山
ニ達ス燈臺マル山頂ノ稍後ニ隱レ又岩石ノ半
腹ニ現ハル南街ノ中道ニ美寺アリ其屋根遙カ

ニ他ノ建築ニ拔出ス内部非常ニ立派ナリ薩摩
侯茲ニ僑居シ坊主ニ頼ル財寶ヲ奪ヒ將軍ニ抗
拒シテ甲兵ヲ弄シタルノ過高トス又慶島ノ東
部山ノ頂下ニ接シテ刑場アリ堅石壁ニテ圍ム
蘭使此地ニ至リタル日丁寧ニ饗應セラレ偶此
地ヲ過クル片日亦人十一人葡ノ羅瑪僧三人磔
刑セララルヲ見ル就中徐リニ燻死セシメリ慶島
ヲ距ルヲ四時行程北西ニ一山アリ其頂雲ニ入
ル全世界ノ一高山ナリ唯テネリ十島ニアルテ
レラニ劣ルノニ何トナレハテレラハ世人

ノ通語ニ天ニ最モ近接スル者ナリトス。雲表ニ
火燭ヲ放テボイム石及ヒ硫黄ヲ氣中ニ投出ス。
阿蘭使節ハ天氣穏静ナルニ乘シテ旅路ヲ進メ
終ニ大村ニ達シ茂木ニ碇泊セリ。出人早ク諸般
ノ器弄物ヲ携テ船内ニ来ル。其後堂後ニ散乱ス
ルノ諸般ノ小島間ヲ過キ進行之日暮セツ山
ノ側ヲ過キ徐クニ進行ス。十一日ニ龜ノ崎港ニ
着ス。一島アリ渙村アリ。茲ニテ舟士縋ベリ。リ
ゲヲ以テ銀花籠ニ代フ。熟知エナリ。製作精巧ナ
ル。全世界ニ敢テ之ヲ擬造スル者ナシ。又諸般ノ器弄物ヲ得テ

リ深夜ニ錨ヲ拔キ先ヨウエ及ヒ誦話。小島ノ間
ヲ過キ日本陸行ノ南岸ナルカロトニ向フ。土人
非常ニ美味ナル石蛸牛ヲ供ス。此食物ハ二千年
前印土人及ヒ東邦人ノ大ニ珍重スル所ナリ。
ア、リアニユス曰ク印土王ハ第二ノ菜ニハ植
物ニ生スル菓ノ蟲ヲ燻キタル者ヲ用ヒタリ。
ア、ンマナルジユス曰ク印土ニ於テハ生活ニタ
ル蛆蚓ノ切り肉ヲ搗キタル菜ト同ク煮ル。土人
之ヲ非常ニ嗜ミ食ス。英人ヨア、ニネスマ、ンデヒ
ル三百年前夕ラセ島ノ諸候木蟲ヲ好ミ食スル

アリ加之羅瑪人ハ此ノ如キ食物ヲ美味ナリト
シ。アリニハスニ搦レハ殊ニ櫟樹ニ生スル蟲及
ヒ蝸牛ヲ大ニ珍重シ之ヲ捕テ麥粉ニテ養ヒ以
テ珍膳ニ供ス又カール第五世帝ラヘルラ
レニヨリキヌニスニ船送シタル兵卒等
ニス。現ニ魚弗利加人ハ蝸牛ヲ食シテ保生ス
ルヲ見タリト云フ。

（音）

石蝸牛ノ外蘭使ハ其徑者ノ為ニカロト野ニ屠
タル牛及ヒ山野牛ヲ得タリ。是此地ニ多産スル
所ナリ此ノ如ク休養シテカシナダリ及ヒヨコシ

マ

諸島ヲ巡リタントノニ向フ。此地家屋華美
ニナ人負多シ日本陸地ノ一海岬ナリ土佐ヨリ
ノ舟着ナリ將軍ノ納税年々銀四万タリルニ及
フ。使節穩靜ナル旅路ヲ進メテ海中ニ突出シタ
ルメワリニ達セリ。舟士四人日本譯官ト共ニ許
可ヲ得テ上陸セリ。市街家屋丘山ニアリ。周圍慰
ム一キ田野ナリ。米及穀物ヲ多産ス。但シ梅ヲ尤
モ多シトス。梅實ハ塩漬トナシ日本全國ニ輸送
ス。則チ茶ノ用ニ供ス。メワリハ人ハ阿蘭人ヲ見
テ大ニ異觀ナリトス。蓋シ此地ニ来ルヲ稀ナレ

八十

日本譯官ノ案内ニテ一二ノ寺院ヲ見タリ
 リニハ寺院ノ負十七ヶ所アリト云フ然レ此
 日招魂日ナルヲ以テ之ヲ見ルニ及ハサリシ全
 街騷動シ各人盛粧シテ近親朋友ノ墓所ニ至テ
 靈魂ヲ招ク老翁ノ顔貌祈念スルヲ表ス釋迦阿
 彌陀觀音或ハ一二ノ他佛ヲ念ス各人其意ニ任
 以テ血族親戚ノ地獄ニ在テ呵責ヲ受クルノ苦
 痛ヲ救換シ之ヲ天堂快樂ノ地ニ誘導セラレシ
 テラ請フナリ又謂フク靈魂ハ數年間ハ墓畔ニ

送フト就中少年ハ市外ニ出テ靈魂ヲ迎ヘ佛事
 ラ執行スルノ後又他ノ墓所ニ詣ス猶慶事アリ
 テ全街相往還スルハ如シ既ニノ家ニ歸レハ
 則チ靈魂ヲ迎ヒ来レリトシテ猶相對話スルハ
 ノ如キ状ヲ為ス此ノ如ク嘲ルヘキ談話ノ後靈
 魂来ルト為レ盛膳ヲ供シ饗應ス或ハ食物ヲ屋
 外ノ廟下ニ置クアリ或ハ屋上ニ置クアリ此ノ
 如クスルテ大抵半時許則チ靈魂食シ終リタリ
 トシテ之ヲ撒ス既ニメ少年趨テ市外ニ出テ樹
 枝ヲ以テ雲間ヲ拂ヘ靈魂ヲ墓内ニ送り返ス十

リ諸事ヲ行フ後家ニ歸ル而ノ終夜追悼シテ曉
ニ徹ス但シ此ノ如キ靈魂ヲ送迎スルハ日本
全地皆同シキ所ナリ又代地ニテハ瓦石ヲ屋外
ヨリ投シテ靈魂ヲ逐ニ歸スナリ

又此市中ニメワリ地方ヲ領スル候ノ義郎アリ
兼テ婦人ノ宮殿アリ内ニ多教ノ嬪妾アリテ候
ノ歡心ヲ迎フ夜ニ入り蘭人四人日本譯官ト共
ニ本船ニ帰レリ則チ出帆シテ諸島間ヲ經テ備
後ニ向フ一現著ナル地アリ之ヲ經過ス市街ニ
高檣及ヒ寺院アリ頗ル廣大ナルヲ覺フ夜シモ

ヤラ見ル翌朝ヒバヲ見ル北風強吹スルヲ以テ
漸次ニ南行スルヲ知ル忽チカニ礁ニ至レ
リ此礁ハ高ク海面ニ拔ク其頂上ニ一小街アリ
其下ニ礁アリ諸方向ノ風ヲ避クヘキ安全ノ地
ナリ之ヲ掘リ割ルノ工費又其術ノ巧妙ナルヲ
驚クヘシ之ニ入テ風向ヲ待テ出帆シクルヲ以
テヒバニ至ラス夜ガヤキニ泊ス而ノ激浪ヲ犯
シテ之ヨリオナニ向フ茲ニテ徹夜セリ翌朝室
ノ洲ニ至リ大ニ危険ニ臨メリ船大ニ衝突セリ
若シ風勢陸上ヨリ強来スルニアラサリセハ船

体必ラス破砕スヘレト思ヘリ。則チ諸帆ヲ張テ
海上ニ出テ深水ヲ求テ飯島ニ向ハントス。飯
島ニハ池ノ小島ニ於ケルカ如ク到ル所燈臺ア
リ。是日本訳官ノ後ニ據レハ二十四年前ニ建ツ
ル所ナリト云フ。當時豊後及ヒ四国ノ人民將軍
ニ對シテ一撥ヲ起シ日本ト土佐トノ間ノ航路
ニ海賊横行セリ。是ニ於テ島人等相謀テ一賊船
ヲ見レハ夜ハ火ヲ點シ晝ハ狼煙ヲ放テ報道シ
右人用意シテ海ニ出テ其船ヲ奪フヲ為セリ。
自後風雨アルカ或ハ一人ニテモ將軍ニ向テ害
心アル者適キスルナレハ之ニ點火ス。但シ此
時各自ノ信號アリテ報道スルヲ以テ適者路ヲ
失シ其船悉チ奪ハルナリ。豊後土佐及ヒ下ノ関
ヨリ大阪ニ至ルノ間小島多キカ故ニ皆燈臺ア
リ各所ニ番卒二人ヲ附ス。日々三シルリシガラ
給ス。

蘭使飯島ヲ辞シテ東行シ塩屋港ニ投錨ス。上陸
シタルニ市ノ周圍田野ノ景色愛スヘレバソ全
地球上塩屋ノ好景ニ比スヘキ者無ルヘレ。羅瑪
人ハカヒユア地方ヲ年々二回ノ收穫アリトテ

誇張スレハ是葡萄ノヲナルヤ穀物ノヲナルヤ
未リ疑ラ免カレサル所ナリ大宇士ブリセテ
サリトシニアルテムベノ慰樂スヘキヲ詳細
ニ撰述スルモ此テムペ及ヒカヒニアハ塩屋ノ
快樂ナルニハ及フヘキニアラス抑モ塩屋ハ南
ニハ大洋ノ濶クアリ航行容易ナリ北ニハ高堤
アリ東ニハ遠ク海中ニ斗出スルノ岬アリ西ニ
ハ土佐島アリ塩屋ノ南堤ニ高礁アリ南来ノ暴
風海ヨリ岸ニ向テ当ルハ波浪之ニ激シテ破碎
スル市ノ周圍ニハ田畝アリ各種ノ種藝アリテ

安全ナリ丘上ニ登レハ樹木繁茂シ谷ニハ諸種
ノ草アリ別ニ平田アリ又牧場アリ牛羊ヲ飼フ
ニ適スルノ草アリ又市中人家稠密ニシテ大
旅舎アリ諸國ノ商賈群来シ機會ヲ待テ大阪堺
及京都又他ノ貿易場ニ至ラントス蘭使ハ一二
ノ鹿皮及ヒ野牛皮ヲ賣ル舟士近傍ノ明石ニ向
ハント欲ス塩屋ノ紳士驚クヘキ説話ヲ為セリ
曰ク此地近年大地震アリ留連スルヲ一日ニ及
ヒたり此時地隙ヨリ火焰ヲ噴出シ百物ヲ燒夷
シ火焰ニ次テ蒸氣ヲ發ス其臭氣人畜ヲ墜息セ

鹽

シメ市○中○家○屋○過○半○ハ○顛○覆○シ○或○ハ○潰○崩○シ○或○ハ○埋○
没○シ○或○ハ○粉○碎○シ○僅○々○小○部○ノ○遺○存○ス○ル○ノ○ハ○明○石○
ヲ○距○ル○ノ○遠○カ○ラ○ス○メ○一○ノ○硫○黃○山○ア○リ○其○地○下○ノ○
次○第○ニ○土○地○ヲ○燬○尽○シ○終○ニ○穴○ヲ○穿○ツ○ニ○至○ル○ナリ○
將○軍○大○閣○様○損○害○ヲ○蒙○リ○タ○ル○地○ニ○大○ニ○賜○与○ス○ル○
所○ア○リ○テ○再○ヒ○舊○形○ニ○復○シ○タ○ル○ナリ○ト○

蘭○使○堀○屋○港○ヲ○出○テ○海○ニ○送○ヒ○一○放○砲○回○ニ○備○後○ヲ○
過○キ○堺○ニ○向○ヒ○タ○ル○ニ○風○勢○北○東○ヨリ○強○来○シ○船○ヲ○
吹○テ○阿○波○ニ○退○シ○退○ケ○リ○僅○カ○ニ○進○テ○忽○チ○高○碓○ニ○
衝○突○シ○大○危○難○ニ○遇○ヘ○リ○而○メ○風○向○轉○シ○北○西○ト○十○

ル○ヲ○以○テ○諸○帆○ヲ○張○リ○堺○ニ○達○シ○碓○ヲ○卸○セ○リ○是○現○
著○ナル○舊○所○ナリ○周○圍○ニ○強○壁○ヲ○設○テ○日○本○將○軍○ハ○
日○本○諸○城○ニ○監○察○ヲ○置○キ○專○ラ○其○壁○ニ○注○意○シ○破○損○
ア○レ○ハ○新○名○ヲ○添○ヘ○シ○ム○ル○ヲ○職○務○ト○為○ス○蘭○使○此○
地○ニ○至○リ○タ○ル○日○偶○一○日○本○人○ノ○重○石○ヲ○頭○ニ○掛○テ○
觀○音○ヲ○信○ス○ル○為○ナリ○ト○テ○船○ヨリ○飛○出○テ○入○水○シ○
タ○ル○ヲ○見○ル○此○遺○舟○ハ○復○タ○世○用○ニ○供○セ○ス○其○神○聖○
ヲ○汚○ス○テ○勿○カ○ラ○ン○ト○テ○直○チ○ニ○燒○棄○タリ○

蘭○使○進○行○大○阪○ニ○着○セ○リ○此○地○ニ○入○ル○片○極○テ○驕○奢○
ナル○行○装○ニ○テ○迎○ヘ○入○レ○ラ○レ○タリ○前○隊○騎○馬○八○百○

人總テ習煉ノ馬ニ騎ル各人満筒ノ矢ト一張ノ
弓ヲ執リ重ニ一鎗一銃刀ヲ佩フ豈及ヒ漆ヲ塗
リタル者日本人之稱スヲ備フ騎兵ノ後ニ騎兵組
頭二人アリ將軍ノ旗持ハ長キ旗ヲ持ツ其竿端
ニ大旗飄ル金銀縫箔ノ圓球ト五尖ノ星ヲ現ス
圓球ノ下ニ一半月アリ海蝶アリ三星及ヒトサ
ンゲビオンガ花アリ且ツ七徒卒徒ヲツ及喇ハヲ吹ク其
響騷然タリ次テ他ノ五人アリ劇シク鼓ヲ敲ク
又大ナル四角ノ日覆ヲ高ク捧ク其下ニ一騎兵
アリ馬ノ頭上及ヒ胸前ニ將軍及ヒ京都ノ記章

ヲ現ス更ニ許多ノ樂人アリテ各種ノ器ヲ弄ス
最後ニ家老未ル是町奉行ヨリ命スル所ナリ家
老ハ驚クヘキ立派ナリ車ハ鍍金ヒ漆塗シ二個
ノ長圓ノ大孔アリ其間ニ他ノ圓ニメ小ナル孔ニア
リ徐クニ轉回ス戸側ニ掛ル帳ニ立派ニメ精巧
ナル花彩アリ屋根ニ二龍アリ其爪ニテ屋根ノ
中道ニアル紋ヲ搦ム四隅ニ火焰ヲ發スルノ柱
アリ運夫左手ニ鎗ヲ執ル其尖鍍金ノ星アリ右
手ニ四綱ヲ握ルシツセシ木ノ孔ニ通スル所ナ
リ運夫四角ナル箱内ニ坐ス花彩アル縮衣ヲ着

ス脚ヲ折テ腹下ニ置リ家老ノ後ニ樂器及ヒ扇
ヲ持ツノ近侍三人アリ又褊斑アル四馬アリ四
貴人騎ル所奉行時々美ナル絹帳ヨリ頭ヲ出
ス此時兩側ニアル各人頭ヲ地ニ接シテ敬禮ス
家老ニ跟随シテ一隊ノ安卒アリ一羊ハ鎗ヲ執
リ一羊ハ鉄砲ヲ執ル一商人美衣ヲ服シテ殿ヲ
リ亦馬上ナリ馬頭ニ美飾ヲ加フ一組頭ニ近接
シテ輿丁十四人ニテ轎ヲ荷フ一側ニ七人ナリ
肩上ニ轎ニ属スル棒ヲ載ス此棒子状ノ轎ニハ五
組アリ四隅ニ四柱アリ此柱ニ絹帳ヲ掛ク上蓋

四

立都記事

ハ絹ニテ製ス周圍ニ剪綴アリ其轎内ニ立都ノ
ニ執政座ス更ニ各種ノ轎アリ皆貴人ノ坐スル
所ナリ以テ行装ヲ飾ルナリ軍隊ノ後尚多數ノ
騎兵アリ蘭使此ノ如キ盛粧ニテ旅舎ニ着セリ
京都ノ前門ハ入口ニアリ中口最モ濶シ前門ハ
灰白石壁ノ間ニアリ中門ニハ高シテ部屋アリ
屋根ニ旗ヲ飄ス京都ハ日本人都會又カブコマ
ト稱ス往時ハ周圍二十一里アリト云フ然レモ
内國戰爭以來三分ノ一ヲ減縮ス而メ尚戸數八

万アリト云フ。上下ニ京ニ分ツ。下京ハ伏水ニ連
接ス。一里以外家屋併列ス。上京ハ内裡并ニ公家
ヲ改官シ云ノ立派ナル邸第アリ。内裡ハ野蠻人
ノ如シ。毛髪ヲ剃セス。瓜ヲ截ラス。市中五ヶ所ノ
有名ナル學校ノ外ハ更ニ京都周圍ニ。大學校五
アリ。則チ高野根來ヲランツンホニ及ヒバンジ
ニ是ナリ。各校生徒三千五百人ヲ養フ。能辨歴史
算學詩學及ヒ算學ヲ訓練ス。

拓植樹繁茂ス。此液ヨリ日本人ハ美味ノ液ヲ製
出ス。其根ヲ掘リ日ニ晒シ乾カシ之ヲ種レハ又

速カニ成長シテ一樹トナル。京都ノ稍上ニ比叡
山アリ。其頂極テ高シ。越中國ニ驚クヘキ高山ア
リ。常ニ火ヲ噴ク。火焰ト共ニ怖ルヘキ魔ヲ現ス。
バートルダライケ記スル所。京都ノ湖ニ一魚ア
リ。鱗ニ黒ナラス。日本人之ヲ曝乾シ。諸國ニ輸送
ス。前ノダライケノ話ニ佛王ロデウエーキ第十
三世之ヲ試食シタリト云此

又此地諸所ニ於テ墓地アル。日本他地ニ於ケ
ルカ如シ。右ヲ建ツ長サ一尺半。或ハ二尺。墓前ノ
凹石ニ死者ノ朋友時々水及ヒ飯ヲ供ス。是貧人

或ハ鳥来リ食ス。又墓前ニ草花。或ハ樹枝ヲ挿ス。

大閣様、京都ニ繁キタル宮殿。驚ク入シ。金ヲ以

テ織タル敷物ヲ列ス。午疊ナリ。宮中一濶所アリ。

中道ニ舞臺アリ。歡樂或ハ悲哀ノ劇ヲ演ス。側ニ

二櫓アリ。共ニ四層ニシテ高シ。家屋多クハ木造ナ

リ。然レ氏極テ立派ナリ。木造ノ者稀ナリ。日本ニ

ハ地震非常ニ損害ヲ爲セハナリ。屢全村全街ヲ

燒失ズルナリ。尚木造ヲ改メス。故ニ常ニ木

材ヲ貯フルナリ。夥シ。帝ニ羨ニシテ濶キノミナラス。

更ニ白色ナルアリ。歐洲ニテカラヘシム。バルニ

供用スル者ニ異ナラス。又樟樹アリ。諸種ノ果樹

強大ナル杉アリ。其精雲ニ達スルカ。如シ杉ハ柱

トナシ。又櫓トナス。夜中火ヲ失スル。片日本人ノ

所業驚ヘキアリ。各町夜中門ヲ閉ツ。故ニ火アル

町ハ自ラ之ヲ滅セサルヲ得ス。他ノ救助ヲ望ム

可ラス。火焰ノ為ニ家屋ヲミナラス。生命ヲモ失

スルニ至ルナリ。

京都ニテハ貿易盛昌ナリ。全日本ニ交通ス。歐洲

他地ヨリハ至便ナルナリ。何トナレハ度量ノ

事。日本人ハ諸候ヲ富者モ乾物濕物ノ別ナク悉ク同一ナレハナリ其尺度ヲ一間ト云フ長サレ
 イレラレドノ六尺ナリ分テ六六小六十ト為ス
 別々一尺ハ十寸ナリ一間ヨリ尺ヲ取ル之ヲ一
 尺ト云フ一間之六分ノ一ナリ一間又分テ六十
 小六十ト為ス十分ヲ一寸ト云フ一寸ノ十分之一
 ヲ一令ト云フ此度ハ諸高店ニ使用スル所ナリ
 精密ニシテ毫毛ヲ違ハス全日本諸地都鄙ノ別
 ナク六十間ヲ一町ト為ス別々レイレラレドノ
 三ナレドレナリ六十町ヲ一里ト云フ別々千
 八百ルレドレナリ公道ニハ一里毎ニ人工ニテ
 繁キタル丘アリ毎丘四大樹ヲ植エ行旅ノ標準
 ト為ス又日本秤量モ精密ナリ別々百斤ハ和蘭
 ノ百二十五倍ニ丁ル百斤ハ百斤ナリ一斤ハ十
 兩ナリ一兩ハ十兩ナリ一匁ハ十分ナリ一分ハ
 十匁ナリ
 貨幣亦同順序ナリ
 司計官必ラスレモ貨幣ヲ造ルニアラヌ銅銀又
 金モ亦然リ各商人鑛坑ノ持主ニ就テ自ラ撰テ
 純金銀或ハ純金ヲ購求シ公許ノ制規ニ從テ隨

意ノ形状ト秤量トニナシ。各定期日ニ衆吏集合
 ニ方テ之ヲ司計官ニ捧ケ。秤量ノ檢閲ヲ請ノ少
 許ノ不足アルモ之ヲ省キ中断シテ再ヒ持主ノ
 手ニ歸ス。秤量適合ナルハ。試官捺印ヲ刺ス。但シ
 秤量不足セサルノミヲ以テ未ダ通用スルキニ
 アラス。更ニ之ヲ他ノ試官ニ捧テ。原ノ純否ヲ檢
 セシム。其貨幣タルノ原ニ適セサル者ハ。試官之
 ヲ碎裂シテ再ヒ持主ニ返ス。然レモ其認可スル
 者ハ其秤量ヲ失ハサル間ハ通用スルヲ得ル
 ナリ。若シ摩損シ或ハ秤量減少スル者ヲ使用ス
 ル片ハ之ヲ没収シ。其人ヲ重罪ニ處スルナリ。
 又貨幣ヲ以テ自他交換スルノ法驚クヘキナリ。
 日本ニハ金銀夥ニキカ故ニ之ヲ授受スルニ必
 ラスシモ一々之ヲ數フルニアラス。之ヲ視ルニ
 アラス。司計官金紙ヲ紙ニ包ミ。一包毎ニ二千
 キユルデント為シ。之ヲ封印シ。甲人ヨリ乙人ニ
 授ケ。甲乙共ニ之ヲ開封スルナリ。又一本箱ヲ
 造リ。之ニ金二十包ヲ納ム。一男ニテ之ヲ荷ニ得
 ハカラシム。則チ每一箱四万ギユルデニナリ。然
 レモ銀ヲ納ムル箱ハ自ラ其形ヲ異ニス。三千ギ

元テシ毎ニ官吏ノ極印ヲ刺ス此ノ如キ粗畧ナ
ル授受法ハ誰カ能ク其錯誤ナキヲ保証シ得
ヤ
又日本金貨ハ三種ノ別アルノ其大ナル者百
五十ギユルテ中ナル者二十キユルテ小ナル
者五ギユルテナリ銀貨ハ換閤ヲ經タル者
モ一定價アルナリ計官之ヲ包テ百五十ギ
ユルデント為ス

四

銅貨ハ中間ニ方孔アリ以テ數枚ヲ繋連スル
細小件ニ於テ賤人ノ使用スル所ナリ日本東部

ニ於テハ大ナル高貴上ニ於テハ金貨ノミヲ通
用ス然レモ長崎ニテハ外人ノ貿易ニハ多ク銀
貨ヲ用フ是將軍ヨリノ制度アリテ金貨輸出
禁スレハナリ抑モ此禁アル所以ハ蘭人年々數
噸ノ金ヲ濫出シタルヲ以テ大ニ損害ヲ蒙リ
レハナリ

蘭使終ニ京都ヲ辭シ陸路比叡山ノ麓ヲ過キ大
津ヲ經テ膳所ニ至ル湖水アリ一川ヲ為シ京都
ヲ經テ大阪海ニ入ル長サ十八里ノ源ナリ膳所
ニ有名ナルパロロマ、山アリ膳所ノ北東々ニ

アリ其美景觀テ飽ウテナシ舟ニテバ口マ
ニ着セリ日本船輻輳スルヲ見ル其搖端ニ旗ヲ
飄ス山麓濱ニ立派ナル門アリ雙方ニ二重ノ四
角ナル柱アリ門扉ハ中間ヨリ左右ニ開ク壁ハ
大石ニテ築キ水ニ面ス城代居ル所ノ屋ヲ防護
ス建築極テ立派ナリ但シ必ラスシモ高カラス
バテロマシ山ノ高サニ稍劣ル城代ノ居ノ外更
ニ許多官吏ノ居アリ人民亦雜居ス總テ壁内ニ
アリ山ハ高ク天ヲ衝ク然レモ突起各様ナルヲ
以テ遠曲羊腸ヲ纏テ頂上ニ至ルヘシ其頂上ニ
至レハ尖帽ニ異ナラス坊主住スル所ノ美寺ア
リ此寺三層ナリ意外ニ小ナルニ似タリ是非常
ニ高ク雲表ニ出ルヲ以テ日本各地市街村落ヲ
遍觀スヘシ例之石部水口土山草津夕モニシユ
膳所大津京都伏水淀救方尾張三河及ヒ高他ノ
諸北ナリ此寺院ト城代ト居トノ中道ニ將軍家
兵卒ノ為ニ設ケル結構ナル住居アリ歌タル丘
上ニナリ更ニ各種ノ家屋アリ右側山ノ頂ニ城
代ノ歡樂ニ供スル園圃アリ其樹木或ハ影ヲ湖
水ニ浸スアリ交互錯綜或ハ相上下シ或ハ枝ヲ

至テ地ニ接スルアリ。國ノ中央ニ立派ナル徑息
所アリ。左側ニ農家教戸アリ。バロロマノ斜傾シ
テ湖ヲ臨ム。又山ノ他地ニハ樹木及ヒ草類ヲ播
種ス。凡ソ全世界中此ノ如キ觀樂スヘキハ他ニ
比スヘキナキナリ。希臘人ハ大ニ四方山ニテ園
シタルテサリアラ賞讚ス。是北ニハテオリムビ
ユスアリ。南ニハオテレーニアアリ。西ニハビンジ
ユスアリ。東ニハオサト及ヒペリオニアリ。有名
ナル希臘大學セストラボ証言ス。オリムピユス
トオサトトハ地震ニテ分裂シタルナリ。此裂陸

ニペテリス水注漑シ。數川ヲ為ス。テムベ谷ヲ過
キ山ニ上レハ非常ニ安靜ナリ。清水注流ス。希臘
及ヒ羅馬詩人此ヲムヤノ景色ヲ記スル。幾許ナ
ルヲ知ラスト。維反焉。テ敢テ此バロロマノ
觀樂ニ比スルヲ得シヤ。

案内者城門前ノ腰掛ニテ諸所ヲ指示シ。細密ニ
説明セリ。其終ルニ方テ膳所ヨリバロロマノ二
從ヒ来ルバシユロミコシドノ其ニ久シク景色
ヲ眺望シテ。蘭使ニ日本風ノ美膳ヲ饗應セリ。此
ノ如キ行儀正シキハ土人ノ性質サリ。小兒ニモ

日本行儀甚
親切ナリ

異

行儀ヲ修行スルヲ論ユ抑モ日本人ハ一旦思
込ハハ危険ヲ顧ミス故ニ高貴ノ人タリ比賤
人ノ為ニ凌辱セラル、トアリ相抗拒争論スル
ノ極決ヲ舌ニ問ハスレテカニ問フトアリ又朋
友ノ為ニ依頼セラルルハ百事ヲ抛テ之ニ加擔
シ死尚顧ミサルトアリ

蘭使更ニ進行ヲ速ヤニス此旅行中ハ日本訳官
時々逡巡信者ノ奇談ヲ述フルヲ以テ退屈ヲ覺
フルト少ヤリ就中一話アリ數年前トバト寺
院ヲ建テセリ其佛像ハ銅臺上ニ立ツ高ク雲ニ

入ル雲霧ナリ頭上冠ヲ戴ク手ニ鏡桿ヲ執ル此
佛氣中ニ飛行シ其桿ヲ運轉ス是則テ雷鳴スル
所以ナリ此雷鳴スルニ方テハ一僧頭上ニ蓮葉
ヲ戴ケハ雷落ルトナシ新漁ノ魚ヲ獻ス

之ニ次テ更ニ弟ニ話アリ但シ帝強陌會ナキニ
アラス曰ク數年前豊後ノ一島ハ日本陸地ニ密
着セリ則テ小倉ヨリ下ノ関ニ至ルニ歩行シ得
べシ一賊アリ立派ナル某寺ヨリ夜中窺カニ金
ノ佛像ヲ盗ミ出し遁走セリ人大ニ驚タリ此賊
小倉邊ニ住ス其佛像ヲ賊巢ニ隱秘ス人之ヲ知

ル者十二佛ハ此懸業ヲ憤リ豊後ト日本陸地ト
ヲ裂キ全地ヲ水浸セリ之ニ由テ日本ト土佐ト
ノ間ハ高麗海ヲ通セリ賦ハ此佛像ヲ貢テ海ヲ
越ラメトカトニ達セリ此像ハ純金ヨリ成ル所
ナルモ尚能ク水上ニ浮ヒタリ此浮像ヲ立派十
ル寺ニ安置ス今尚衆人ノ祈念參詣スル所ナリ
詎官更ニ曰クメトカトヲ距ルノ遠カラズメ非
常ノ一高山アリ武庫島ニ對ス山上ニ一寺アリ是
航客ノ遙カニ海上ヨリ望ミ見ル所ナリ此寺中
ニ一僧アリ主佛ヲ尊奉ス是徃時帝ニ日月及ヒ

要

星ヲ造ラシメテ十ヲス更ニ十五佛ヲ作ル是數百
年前世ニ現出セシ所ナリ主佛配下ノ佛ニ命シ
鑛性卵ヲ造ラシム此内ニ四元素水土氣火及ヒ
四元色青緑赤黄ヲ含畜ス此卵ヨリ四元素四元
色出テ相混合シテ世界萬物ヲ製造スルニ至ル
ナリ世界ハ人類出ルニ及テ始テ開闢トナルナ
リ其始竊内ニ一婦人生ス此婦精神ナシ主佛之
ニ精神ヲ賦與スル為メ一牡牛ヲ此竊邊ニ送ル
鼻孔ヨリ氣息ヲ竊内ニ通ス此氣ヲ通スルニ及
テ其婦精神ヲ得タリ則チ配下ノ佛ト層接ス之

ヨリ人類ヲ産出ス。其夏數漸次増加スルニ至ラ
ス。更ニ精神ヲモ開發スルニ至レリ。是ニ於テ次
第ニ尊貴トナリ。雷虹火及ヒ主佛ヲモ嘲弄スル
ニ及ヘリ。頭ヲ官地ニ佛ヲ稱スルハ屢ニ於テ主佛諸佛ヲ集會シ諸事ヲ撲滅セシテ評議ス。日月及ヒ星ヲ天ヨリ下シ氣ト水トヲ混合シ一雜塊ヲ導諸元素形ヲ為サズ主佛殊ニトバシテシテ雷球ヲ造リ氣ヲ射セシム。又雷火ヲ以テ諸國ヲ燒夷セシム。諸佛命ヲ奉スルヲ以テ暫時ニモ世界無形ノ一塊トナリ一人モ生活スル者

ナシ唯一男子ト其家族トノニ保存スルヲ得
タリ。是屢諸佛ヲ止宿セシメ日々之ヲ尊敬シタ
者ナリ。主佛此混雜中ニ於テ能ク其生ヲ保存シ
タルヲ憐ミ之ヲ深坑内ニ納レ大ナル穀ヲ被セ
以テ水ノ口内ヨリ浸入スルヲ防キナリ。

大古ヘテアダムス墮落シ大洪水ヲ來セタ
ルハノアリ及ヒ其家族ノニ此厄難ヲ追シタル
世誰カ之ヲ知ラサラシヤ。羅馬人及ヒ希臘人
此事ヲ説クニ。金世界銀世界銅世界及ヒ鐵世界
ノ語ヲ以テス。又テウカリ方ニ及ヒピルヲ以テ

日本八十八ノ一ノ一
卷ノ一ノ一ノ一

以テ恐ルヘキ水難ヲ追シタリトス上ニ記スル
日本記官謂ク。葡人カトルケリア人英人及ヒ蘭人
皆彼ノ水難ヲ免カレタル土坑内ノ人ヨリ出タ
リト其説ニ曰ク主佛大ニ万物ヲ搜藏シタルハ
ニ日本滿洲琉球支那ハ共ニ此難ヲ免シタリ故
ニ此地方ノ人民ハ大ニ歐羅巴人ニ異ナル所ア
リ凡ク歐洲人ハ之ヲ日本人ニ比スルニ頭大十
ラス鼻扁ナラス眼陷凹ヤス大酒ヲ好マヌ軀幹
矮小ナラサハナリ
諸佛カノ海ヨリ一所ニ歸リ會シトバン散乱

セル雷塊ヲ再ヒ集ムルハニ彼避災人ホ坑内ヨ
リホテクローイラニグ國ニ於テ居ヲトメ家族ト
共ニ數子ヲ生ム此數子相婚シ子孫繁息ス血族
漸次蕃息スルニ及テ天ニ昇リタル主佛ニ請テ
下土ニ再來セシメ之ヲ慰ムルニ田疇ヲ以テセ
ントス則許諾多タルヲ以テ何地カ尤モ適セ
ルヤヲ搜索シ且クローイラング諸人集會ス相議
シテ曰ク是我祖先ヲ溺ラシメ且世界ヲ潰崩シ
タル佛ナリ宜シク報讐スヘキノ期至リタリト
テ準備方ニ成リ別ケ以テ四方ニ放テ森林ヲ燒

曼

ク暫時ニメ樹木悉ク燒ク一ニ佛アリ之ヲ火中ヨリ救ハントシテ劫殺サル他佛ハ焦死ス然シ氏七佛遁レテ天ニ昇リ此惡業ヲ主佛ニ訴フ主佛高ク帽ヲ擧ケ一使ヲ遣リ罪者ヲ罰スヘキノ全権ヲ與フ天使下テソライラングニ於テ其謀主ヲ地獄ノ沸水中ニ投シ永劫地下ニ在テ呵責ヲ受ケレド

蘭使前路ヲ速カニシ桑名ニ達シ宮ニ涉ル則チ献上品ヲ船ヨリ出し濱ニ運ス宮ノ町奉行多人ニ令シ出テ来リセルヲニテ訪問シ市門外ニ銅

砲ヲ架ス日本人之ヲ放テ大響ヲ發セリ又各様ノ轆アリ各多教ノ徒者ヲ隨フ四蘭人高石上ニテ喇叭ヲ吹リ所奉行オビラハギアシトンドノセルヲシラ尋ネテ既ニ之ヲ見當ルニ及テ直チニ轆ヲ出テ使節ニ謁シ日本式ニテ身ヲ屈シ地ニ接ス其背後ニ多人從フ或ハ鉄砲或ハ長鎗或ハ長刀ヲ執ルアリ

蘭使江ヲニ達シ逗留少日ニテ諸事ヲ整理シ許可ヲ得テ長崎ニ歸レリ平戸ニテ鉦櫛ヲ見ル是高麗海ニテ年々鉦ヲ擲スト云フ此鉦ノ大ナル

一驚り一し。其男根ハ十四尺アリ。平日ハ腹内ニ
藏ル所ナリ。莖尾スルニ方テハ熱心狂スルカ如
シ相互ニ腹ヲ接ス。膚接スルト一時許鱗ニテ相
抱クナリユリウスカリサルスカリゲルノ説ニ
テハ妊孕スルト十ヶ月ナリト尋常鱗ノ長サ
百二十尺頭ハ一身ノ三分ノ一ナリ。鼻上ニ二圓
孔アリ之ヨリ夥シク水ヲ吸収ス。又水ヲ噴クニ線ヲ
爲シ高ク天ニ昇ル。目長サ三尺幅一尺。羊長腹ア
リ耳ハ雙方ニ在リ外大ニテ内小角ハ鋭ナリ口
ヲ開ケハ濶サ五尋舌十九尺幅十尺軟毛アルハ
百髮上ニアリ。鯨鯨者鱗ノ胃ヲ開クニ僅カニ少
許ノ蝟及ヒ海藻アルヲ見ルノニ或ハ他ノ魚類
ヲ見ルトアリ。鯨ヲ殺スルニ夥シク鯨ヲ吞ハ者
ヲ見ルトアリ。咽喉ノ内瓣膜ハ咀嚼スル片ニ閉
鎖スルナリ。秋時ニ牝鱗一子ヲ産ム。牛ヨリ大十
リ常ニ母ノ鱗内ニ隠ル。雛乳前ハ母ヲ齧ル。十
シ此ニハ外部乳頭ナシ。但シ乳汁ヲ盈ルノ乳房
アリ。乳房ハ陰所ニ近接ス。故ニ多液ナリ。偶人口
ンデレト現ニアキエタニセ。鱗ニテ目撃シタル
一話アリ。漂着シタル一牝鱗ノ乳房ヨリ乳汁ヲ

捲リタルニ二酒管ノ量ヲ得タリ。又注目スヘキ
ハ鯨魚ト小魚トリユス。ト相懸着スルナリ。此魚
常ニ其目ハ大ナル眼瞼ニテ常ニ被フノ鯨ト共
ニ泳遊シ。浅洲或ハ岩礁アル所ニテ鯨ニ膏接ス
ルナリ。有名ナル羅旬詩人カララジアニユス之
ヲ詠スル詩アリ。其句意ヲ解スレハ
鯨魚岩礁ニ達シ頭ヲ衝キ配ヲ索ム索ナテ得
サレハ憤怒シ海上ニ泳キ小尾魚ニ膏接シ密
着シテ離レス。

覽

トリユスハ鯨ニ於段ナル戀情ヲ挑撥スレト而

モ江豚ドルヘーニ及ヒ鯨魚ハ常ニ鯨ヲ敵視ス
鯨魚ハ鯨魚ノ腹ヲ穿テ或ハ口ニ入り舌ヲ咬ム
故ニ死鯨ニハ間舌ナキ者アリ。グリニユス証言
又鯨魚ハ音ニ眠ルノミナラス或ハ斲スルヲア
リ其眠ルヤ頭ヲ水上ニ出シ氣息ヲ便ニス。淫情
強盛ナリ鯨魚小牡ハ多クハ牝鯨ニ添テ十五
十七年和蘭テルヘイテ村ニ鯨魚到リタルヲア
リタリ。是漂着シタルナリ。牡鯨大ニ狼狽シテ牝
鯨ニ水ヲ噴キ注テ之ヲ救ハントスルニ効ナク
牝鯨深所ニ沈没ス。牡ハ牝ヲ逐テ共ニ深所ニ行

ク漁者之ヲ逐テ同シク深所ニ到リ終ニ之ヲ獲
クリ母鯨ノ子鯨ヲ思フヤ亦之ニ劣ラス大風暴
雨ニ遇ヘ或ハ暗礁淺洲ニ漂流スルノ恐アルハ
ハ母鯨ハ子鯨ヲ口内ニ隔シテ保存スルナリ
平戸ノ日本人高麗海ニ出テ鯨ヲ漁スルノ法ハ
スピツツベルゲン及ヒゲルンラントニ於テ
行フ所ニ全ク相同シ海上ニテ鯨ヲ見ルナレ
ハ速カニ小舟ヲ泛ヘテ其傍ニ至リ鉗ヲ控刺ス
此鉗ニハ鍊彈機ヲ設テ頭ノ側ニ刺スヲ要ス鉗
ノ尾ニ索ヲ附ス長サ二百丈ナリ鯨損傷ヲ蒙ル
直ニニ海底ニ遁ル故ニ漁者直ニニ索ヲ弛ムナ
ナリ但シ索尽レハ舟覆ルナリ故ニ豫メ索端
ニ空桶ヲ附シ索ヲ放ツモ桶浮フヲ得セシム屢
鯨魚深ク没シ索及ヒ桶ヲ見失フナリ然レハ
終ニ鯨大ニ脱カエルカ或ハ死シテ自ラ海上ニ
浮出スルナリ尚其保生スル者ハ側ニリテ
投刺スヘシ但シ之ヲ為ニ鯨知覺ヲ發シ再ヒ運
動シ人民危険ナルナリ僅少ナラサルナリ死鯨
ハ岸ニ引キ寄セ或ハ船ニ引キ寄セ大刀ニテ脂
肉ヲ截リ取ル平戸ニテハ脂ヲ煮テ全日本國ニ

輸出ス

蘭使平戸ヲ過テ長崎港内ニ着セリ。偶開商日中
 十リ夫レ開商ニハ前以テ諸道ニ張紙ニテ出島
 ニテ發賣スル物品ヲ掲示スル十リ商業定時ニ
 至レハ鐘ヲ鳴ラシテ長崎中ニ之ヲ報道。商會群
 衆價ヲ定メ各人其思想スル所ヲ書記シテ投標
 ス。甲乙相互ニ其高低ヲ知ラス。奉行此投標ヲ集
 メテ一々通覽シ最高價ノ標ノ記者、手ニ其品
 ヲ歸スル。ト定メ即日代價ヲ納レシム。或ハ銀
 塊ヲ以テスルアリ。或ハ紙包ノ貨幣ヲ以テスル

アリ。此ノ如キ現金賣買ナルヲ以テ確實ニシテ
 決シテ一人モ謬算スル者アルトナシ。若シ或ハ
 滯滞スル者アレハ詐欺者帝ニ死刑ニ處セラレ
 ノニナラス。更ニ其全家族及ヒ近隣二十家別々
 左右合壁各五家對門十家共ニ累連其難ヲ免カ
 レザル十リ。荷物運搬スルニハ多數ノ雇夫ヲ使
 役ス。此輩出島高館ニ来ルハ一奉行上意ヨリ之
 ヲ監視シ其員數ニ應シテ鑑札ヲ與フ。此札ニハ
 東印土商會ノ記章アリ。多人往復奔走シ競ヒ働
 クノ状ヲ通觀スルハ頗ル慰情スルニ足ル之ヲ

要

所持スル者ハ打擲捕縛ヲ免カルヘシ之ヲ得ル者別々帶間ニ挿シ奉行ノ前ニ出テ定額ノ給料ヲ請取リ勞役ニ從事スルナリ

十一月始テ船ヲ装ヒテ伯帶比亞ニ向ケ更ニ蘭

國ニ歸ラントス是ヨリ前ニ麻六甲蘇門答刺

ロマレゲル及ヒ他ノ印度諸岸ヲ通過スヘシ長

崎ニテハ既ニ兵器ヲ船内ニ入レハ假令甲板上

荷物尚紛乱シテ整理セサルモ雨候逆風ナルヲ

モ論スルナリ速カニ出帆スヘキナリ少時ニ

テモ滯滞スレハ四圍ニ數百艘ノ船来リテ碇ヲ

揚ケ船ヲ引テ坊主山ノ方ニ送り出スナリ此地

ニハ九月ヨリ四月マテハ北風ヲ定風トモ少時ニ

テ日本ヲ見サルノ地ニ出ルナリ

長崎ヨリ毎年ニ船少ナクモ一船ハ東京ニ向テ

ナリ此地ニ至ル海上ニ長サ三十里ノ淺洲アリ

テ船路危険ナリ此地甚大サアムエテルガバニ

及ハス其門及ヒ橋ハアルバステル石ニテ築ナリ

大ニ市街ヲ粧飾スルニ足ル許多ノ絹及ヒ麝香

ヲ以テ紅羅紗麻布龍涎香ニ交易スアルバステ

ル石ハ輕荷ト為スヘシ蘭船着岸スル處ノ對面

ニ王宮アリ非常ニ立派ナリ王ニハ侍者三百人
アリ凡ク華美驕奢ナル一萬國之ニ比スヘキ所
ナリ馬ハ能ク習熟スル所ナリ土耳其及ヒ白牙
利ノ馬ニ譲ラス騎兵ハ圓紋ヲ現シテ坐シ前ニ
屈ス右側一袋ヲ佩ク内ニ彈丸彈藥ヲ盈ツ臂ハ
衣ヲ掲ケテ腕ヲ露ハシ兜ノ上ニ羽毛ヲ挿ム王
ノ食スル所ニ正殿ニテ鼓ヲ打テ舞踊ヲ土人ハ
其女ノ蘭人ニ荒淫スルヲ許シテ制セス

又長崎ヨリ出航スル船或ハ麻六甲ニ向テアリ
此地ハ瀾キ海岸ニアリ長サ一里商業ニハ尤モ
適セル地ナリ大河アリテ貫流ス結構ナル橋ア
リ衆人ノヲ過テ相来往スアルホンニユスアル
ビユキユユルケル有名ナル商地臥亞ヲ再ヒ取
リタル中葡王エマニウルニ向テ誓約ヲ破リ亞
刺伯マニエド王麻六甲ヲ奪ヒ夥シク葡人ヲ捕
ヘ之ヲ堅牢ニ入レリアルビユキユエルケル捕
人ト共ニ麻六甲ニ遁走ス道ニ麻六甲軍曹十人
ガベギエカニ逢フナオガベギエカ大ニ之ヲ憐
ミ衆ニ混ヒ死ヲ顧ミスレテ鬪争シ百ヶ所以上
ノ創傷ヲ受ケテ倒レリ而ルニ一割ヨリモ出血

セナルヲ以テ人大ニ之ヲ驚怪セリ。既ニメ金ノ
 臂環ヲ弛脱レタルニ忽テ諸劍ヨリ夥シク漏血
 二十オダベギユカ即死セリ。押人書ヲ以テ之ヲ
 報ス。此臂環ニハカミシム獸ノ骨ヲ拵セリ。是出血
 ラ閉止スルノ効アレハナリ。

麻六甲ニテマニエドノ女ブリンデルバネニセ
 じニ嫁ス。婚禮ノ式極テ華奢ナリ。一大屋ヲ造ル。
 三十車上ニアリ立派ナル轎ヲ敷ク。象之ヲ引テ
 市中ヲ通過ス。内ニハ卓子ニ被アリ。賀客歌ヒ且
 ツ躍リ。諸般ノ快樂ヲ為シテ騷擾ス。此騷擾中ニ

四

アルベウキユエルケシ着岸ニ葡人ノ捕ハル者
 放解ヲ請フマニエド之ヲ恐ル。殊ニ麻六甲ハ
 葡人ニ批撥セラレテ熱思ニ堪ハス。然レモアル
 ビ上キユエルケシ之ニ和親セヌ。市中ニ一地
 ヲ定メ城ヲ築キ以テ安心シテ商業ヲ営マシム。
 欲ニ且ツマニエトノ為ニ船ヲ準備スルニ消シ
 ツル雜費ヲ償辨アラシメテ求ム。王子及ヒ養子
 二嚴ニ之ヲ拒ミ日ク孰慮セサルヘカラス。由高
 慢ナル葡人ノ虚言豈ニ堪ユヘケンヤ。是ニ於テ
 少年輩ヲ強テマニエドニ鎧ヲ裝セシメテ不都合

ナル誓約ヲ結ハサラントス。麻六甲ハ客場ニ通
過スヘキカ故ニ各所ノ堡塞ヲ堅固ニシ。殊ニ橋
梁ニ注意シ兵ヲ備ヘ砲ヲ列ス。更ニ象ニ多数ノ
兵ヲ載テ市外ニ出テ葡人ノ進ハテ遮ラシム。然
レモ葡人ノ進ヲ拒シテ進入シヨアニリ。直チ
ニ市中ノ一部ヲ占有セリ。是王宮及ヒ瑪哈默
寺ノアル所ナリ。マニユトハ象ヲ進メテ葡人ノ後
驅逐シ勇戦マニユトハ象ヲ進メテ葡人ノ後
ヲ襲フ。マ其兵ノ一部ヲ向ケ直シ砲ヲ放テ乱
戦シ象ヲ遊テ敵軍ノ内ニ放テ且ツ諸道ノ堡柵
ヲ破ル。象ハ退行シテマニユトハ軍卒中ヲ蹂躪
ス。是ニ於テ全军散乱シ各人意ニ任ヤテ四散シ
マニユトハ重創ヲ蒙リ辛クシテ僅カニ遁走シ
アロデーン亦敗走ス。

然レモアルビエキエハ尙丈ニ橋ニテ支
ヘラレタルヲ以テ一時退去シ數日ノ後再ヒ攻
戦シテ大捷ヲ得タリ。此時マニユトハ市中ヲ堀
リ火藥ヲ裝シ葡人ノ通過スルニ方テ點火シ全
軍ヲ塵ヤント謀ラタルニ其謀漏レタルヲ以テ
敵兵ハ別道ヨリ進入シアクトニラスアガレハ

ト橋ヲ奪領セリ

但シ麻六甲人敵ヲ狹所ニ擊シ劇シク之ヲ支へ
婦女小兒モ窓ヨリ瓦礫ヲ投シ火ニ敵軍ヲ退ケ
リ取戻シタル橋ニハ滿桶ノ土ニテ被覆シ以テ
敵軍ノ舟ヨリ火ヲ放ツヲ標ケリ

マミエドハ山林ニ遁レ痛心ノ為ニ死セリ

市街ハ軍卒ノ為ニ乱暴狼藉セラレタルヲ以テ

女王二十万金コロシノ價金ヲ約シ葡王エマ

ニナルノ寶庫ニハ國財五分ノ一ヲ歸セリ

アルゴエキエアルケン茲ニ堅城ヲ築キロデレ

一キバタリリニシテ之ヲ宰リテシム居ル

久シカラズシテプロデーニ欺計ニ陥リ新城

ヲ奪ハレタリマセレイクニ榜葛刺ヨリ来ル

者ナリ城ノ司計アルエマシユスベルソナシ深

交アリアロデーニマカレリスニ賄賂ヲ贈リ

之ヲシテ兵卒ヲ商人ニ擬装シ城内ニ伴ヒ入リ

シムマセレリス直チニベルソナシヲ背後ヨリ

截タリペルソナシヲ創ヲ帶テ戸ヲ破リ出テ兵士

ヲ與ヒ終ニ死セリ

自後葡人靜穩ナリ千六百五年コルネリスマヲ

リ。一。テ。セ。ル。ヨ。リ。出。帆。シ。十。一。船。ヲ。以。テ。千。三。百。
五。十。七。人。ヲ。送。リ。四。丈。船。ヲ。麻。六。甲。ニ。向。テ。出。ル。
マ。ラ。ツ。カ。ニ。丈。砲。ヲ。放。リ。麻。六。甲。人。七。百。人。ニ。テ。石。
壁。ニ。搥。テ。敵。兵。ヲ。防。ケ。リ。且。ツ。前。街。ニ。火。ヲ。放。テ。内。
ニ。退。キ。閩。漳。堅。城。ニ。固。守。シ。テ。丈。敵。ヲ。防。ク。ニ。適。セ。
シ。ム。ヨ。ル。ホ。ヨ。ア。ン。テ。バ。干。工。ア。ン。援。兵。ヲ。送。リ。タ。
リ。然。レ。氏。土。人。ハ。願。情。ニ。シ。ケ。用。ニ。適。セ。ス。臆。病。シ。
シ。テ。戰。ニ。進。マ。ス。唯。城。濠。ノ。側。ニ。楯。ヲ。列。シ。頻。リ。シ。
放。銃。ス。ル。ノ。ノ。市。中。八。日。々。鏖。戦。ト。是。第。ノ。為。ノ。ニ。
四。十。人。以。上。ヲ。斃。ス。軍。卒。尚。病。苦。ニ。襲。ハ。ル。蘭。營。中。

蘭人高八

ニ。傳。染。病。蔓。衍。シ。兵。士。露。天。ニ。徹。夜。蚊。ハ。惱。ア。サ。
レ。不。眠。ノ。為。メ。困。弊。シ。絶。息。セ。シ。ト。ス。此。時。ニ。方。
テ。偶。蘭。國。ヨ。リ。二。百。四。十。人。ノ。援。兵。ヲ。得。テ。再。ヒ。勇。
ヲ。鼓。シ。テ。ケ。レ。イ。シ。ソ。シ。船。ハ。麻。六。甲。ヨ。リ。進。走。ス。
ル。テ。打。撃。ス。
コ。テ。リ。一。フ。此。船。隊。ヲ。指。揮。シ。丈。砲。ヲ。放。テ。戦。ヲ。挑。
ミ。軍。備。ヲ。盛。ニ。ス。翌。朝。口。ハ。ホ。岬。ニ。テ。激。戦。シ。互。ニ。
二。船。ヲ。沈。没。ス。マ。テ。リ。一。フ。彈。藥。漸。ク。乏。シ。故。ニ。熱。
思。セ。サ。ル。ヲ。得。ス。敵。船。ニ。接。戦。セ。ト。シ。一。再。考。シ。テ。
愼。決。シ。タ。ル。ニ。葡。人。暗。ニ。乘。シ。テ。麻。六。甲。ニ。進。入。シ。

堤ニ接シテ停泊セリ。阿蘭船隊ハ諸品缺乏シタ
ルヲ以テ止ムヲ得ヌ。王國ヨルニ向テ須要品ヲ
備ヘサルヲ得ヌ。尤モ急務トスルハ彈藥ナリ。然
ルニヨル敢テ之ヲ給セス。蘭人ヲ敬尊スルノ意
ニ急リ却テ鎗ニテ突カントシ一物ヲモ購求ス
ルヲ得ヌ。葡船隊ハ城下ニアリテ麻六甲街ヲ犯
セリ。第一戦ニ於テマテリヲ四大船ヲ奪ヘタ
リ。是船隊三分ノ二十リ。小船多クハ蘭人ノ手ニ
テ燒キタリ。此ノ如キ強盛ナル船隊ハ豈ニ小船
隊ノ當ルヘキ所ナランヤ。ガリハ船十六艘力

榜葛刺事
大變亂

レ一ノ四艘ヒユステシ及ヒカルヤエール四艘
葡人三千七百人。印度人之ニ倍ス。王國ア干エシ
ヨルハヒ及ヒハタ十皆震恐スル所ナリ。
阿蘭船榜葛刺ニ着セリ。千二百五十九年女王ノ
第五ニ叛ス。全國大ニ震動セリ。之ヲ拒ク長時ナ
ラスシテ合衆阿蘭ノ東印土商會之ヲ救援シ。伯
帶比亞ヨリ諸般ノ軍費ヲ供給シタルニ非ザレ
ハ王ノ衣冠及ヒ生命將ニ他人ノ手ニ落ストヤ
リ。然ルニ久戦ノ後王軍敗微ヲ見ルヲ以テ蘭人
ハ前陣ニアリタレ。氏商價ナレ貨物ヲアヘンエ

ルニ船ニ種ニ高館ヲオニグリニ移サニトス此
 地ニ英人既ニ高館ヲ置ク所ナリ然ルニ榜葛刺
 王ハ伯蒂比亞援兵ノ力ヲ得テ全勝ヲ得タルヲ
 以テ蘭人ニ許多顯著ナル進物ヲ寄贈セリ但シ
 英人ニハ少關係ナシ其居留地ハ陸地有名ナル
 鉛錫斯何時ニアリ蘭高館ハ立派ナル石造堅城
 ナリビールビユンテシ大砲十二門ヲ備フ深ク
 且ツ濶キ濠ニテ防護ス一方ニハ二百舎アリ天
 井ナシ藁及ヒ木葉カバガニテ覆フ此葉
 ハ長廿三尺半幅四寸之ヲ密貼スハ風雨ヲ防

榜葛刺高館
 三

グニ足ル
 榜葛刺高館ハ外雅ヲ盛ニス頭髮ヲ短剪シ濶布
 ヲ以テ被フ白綿製ナリ通例長廿五尺髭短カク
 鬚ハ胸ニ垂ル上衣ハ精巧白亞麻布ナリ白絹紐
 ニテ縫フ腰ニ絹帶ヲ纏フテ右臂ニ掛ク袴ハ支
 那人ニ異ナラス紅色莫大ハモール人ニ同シ
 平人ハ此ノ加リ立派ナルニアラス頭ヲ暴露シ
 一衣ヲ腹ニ纏フ下腹ハ狹キ袴ニテ緊窄シ莫大
 小ヲ用フルヲナシ婦人ハ乳房ヲ現ハシ髪ハ鬘
 アリテ背ニ垂ル

東印土商會。榜葛刺ニテ貿易スルハ。日本銀銅及
 漆器又錫ナリ。之ヲ麻ナリ。又水銀紅羅紗及ヒ
 諸般ノ阿蘭產品ナリ。更ニ胡椒肉豆蔻弗利丁子
 セイラント産ノ象ナリ。此等ノ諸品少ナクモ五
 百レークスガールデニ過ク。又榜葛刺ヨリ輸
 出スル品ハ粗糖多ク。波斯又硝石ナリ。西帶比
 之ヲ彈藥ニ製ス。又此地産スル粗絹及ヒ木綿ハ多
 ク日本ニ送ルナリ。
 又榜葛刺ノ西ニネゴバタムアリ。一大市ナリ。モ
 ーロノ住スル所ナリ。航商盛ナリ。但シ多クハ阿

蘭舟士ヲ雇フ。舟綱ハ樹皮ニテ編ク。ネゴバタム
 婦人ノ行装驚クヘシ。稍身位アル者ハ精笠ヲ戴
 ク。之ヲ透シテ上身ヲ見ルヘシ。衣ハ二匹シテ夏
 餘ヲ以テ下身ヲ被フ。腕ニ金環ヲ纏フ。幅二寸。尤
 モ可笑ハネゴバタム女鼻ニ二環ヲ掛クナリ。ネ
 ゴバタム街ハ平ナル濱ニアリ。西河ノ間ニアリ。
 堤ナク門ナシ。此河ハ小舟及ヒ諸般ノ漁船アリ。
 リ市前ニ各種ノ建築アリ。造船所アリ。又ネゴバ
 タムヲ距ル一二里ニピユロルナリ。大船ヲ
 寄スルニ適セリ。

一ゴバタム人。其子八歳九歳ニ及ベハ結婚セ
 シム。新郎新婦壘壁ニ對坐ス。賓客飽醉舞踊唱歌
 叫喚拍手極テ盛ナリ。阿蘭高館ハ本造ニテ其間
 ニ石ヲ墁ス。東印土商會ノ人外出スルニハ或ハ
 馬或ハ轎ヲ用リモ、ルセ人多數ヲ伴フ皆四紋
 フ装ヒ長劔ヲ佩ク。蘭人日本儀保無ク燒又土儀答
 箱類陶器及ヒ樟腦ヲ以テ諸般ノ木綿西ニ代フ
 往時ハ阿蘭人ネゴバタム來テ積ニ出帆シタレ
 氏日本ニハ此品夥多ナルヲ以テ此商事ヲ廢セ
 リ。

終ニ東印土商會ノ象ヲ以テ大商ヲ為セリ。セイ
 ロンヨリ佳品ヲ産ス之ヲ船載スルニ勞苦ス。則
 干本船ニ入レテ上ヲ被フニ根附キノ松植ヲ以
 テス。此樹葉ハ象ノ嗜好ニ食スル所ナリ。本船ニ入
 ルニハ大滑車ニ二大索ヲ附ケ引揚ケ。腹部前脚
 ト後脚トノ間ニ太索ヲ四匝シ。紡車ヲ以テ送テ
 溜所ニ置キ。甲頭ト乙頭トヲ對立セシム。其中間
 僅カニ通路アリテ。秣器ヲ置クヘシ。セイロン人
 ハ能ク象ノ腹ニ這ヒ糞穢ヲ除去ス。
 象ハ大有力神ノ一大作物ナリ。ベヘモト之ヲ神

ト稱ス象ハ葦ヲ食スルイ牛ノ如シ其力ハ腰ニ
アリトマスアキユイナス及ヒニコラースフハ
シリールハ多クソヨードセラベヘ一ニ一ノ説ニ
據テ日クベヘモト象ヲ司ドル人ニ才智ヲ興フ
ル中同日ニ象ニモ才智ヲ興ヘタリ故ニ此物莫
状怖ルヘキニ敢テ人ヲ驚カスナシ穩柔ナル
一中は異ナラス能ク農事ヲ助ケ遠ク人ノ足音
ヲ聞キ又能ク臭臭ヲ嗅キ知ル
印度象ハ亞弗利加象ニ勝ル其強カハ背上ニ架
スル塔ニテ知ルヘシ戰時ニアニクオキチスア

ウハトルヨードン向リニ各象ニ一塔ヲ架シ一
塔毎ニ三十二人ヲ載ス御度ハ御此獸三百年保
生スルトハアリストテレスブニラスタムバ
ロシウス及ヒノンニユス証スル所ナリ
又希臘記者ビトストラキユスノ語アリ象ハ人
ノ親僕ナリ能ク看護シ能ク注意スト則チ象ノ
二事ヲ記ス一ハ才智伶俐ナル一ハ能ク教訓
ヲ守ルナリ甲例ニ屬スヘキハ矣日ニハ象全
身ヲ深泥中ニ入テ涼ヲ取ルナリ水ヲ飲ムニ先
ク鼻ヨリ吸收シテ以テ有害ノ昆蟲ヲ吞下セサ

ル為ニス。是ヲオペーラリテユス。ミモカテユス
ノ考ノ如ク。水ヲ動カスト云フヨリハ。水性ヲ試
験スルト云フヲ確實ナリトス。又流水ヲ渉ル片
幼者ヲ前行セシム。此ノ如クセスシテ。老者先ツ
渉ル。其体重ノ考ニ容易ニ地ヲ深クシ。幼者ノ
渉ルニ難カル可レハナリ。又此物ノ伶俐ナキ証
スル。評多記者ノ現話アリ。プリヒリス。セネカ
及ヒシユートニウ。ス曰ク。羅馬劇場ニ於テ。營ニ巧
ニ投劍ヲ避クルノミナラス。更ニ張リタル綱ヲ
渡ル事アリ。

ヒーロニユスオソリユス曰ク。印土ニ一象アリ
千五百十四年法主レオ第十世ヲ梓スル。三回
ナリト。アウゲリウスビユスベキユカス曰ク。余
土耳塞帝ニ謁シタル中。一幼象ヲ見ル。結歌ニ應
シテ舞踊シ。或ハ球ヲ背上ニ轉回スルアリ。パ
トルヘルル。一ニヨリカユリユスクリユシラス
ニ證言スル。尤モ徴スルニ足ル。又エステ立ス
リビウ。ス。嘗テ一象ヲ飼フ。偶疫勞シ。餓餓ニ堪へ
ス。市中ニ出ツ。一驢馬ノ大麥ヲ食スルヲ見ル。則
チ驢ヲ逐退ケテ。自ラ秣器ニ就テ。悉ク之ヲ食シ

尽ス。次テ飼主市ニ来リ。我家ノ大麥ヲ多食シタ
タルヲ見ル。象ハ餓餓ニ迫リ。驢馬ノ食ヲ奪ツタ
ルノ状ヲ示シ。且ツ驢馬ノ為ニ其量ヲ償ハシメ
シ。日欲スルノ意ヲ鼻端ニテ徴セリ。此象人ニ對
シテ大ニ威カヲ現ス。ゾリニウス曰ク。象ハ人影
ヲ見サルモ早ク足音ヲ聞キ敵軍ハ襲ヒ来ルヲ
悟ル。四方ニ注意シテ敢テ遠離セス。次ヲ逐テ象
象ニ報シ。終ニ最後ニ達ス。而シテ敵ニ向テ銳進ス
プリニウス又曰ク。ボツキユス三十象ヲ飼ノ死
刑ニ處ス。ヘキ流人ニ之ヲ教唆ス。然レ氏此ノ如

キ殘忍ナル所業ヲ厭ワテ之ヲ為シ肯セス。又如
口トマーウスビースコニ象ヲ酔ハシメテ裸体
ノヨリテシラ。其妻子ト共ニ踏ミ殺サシマント
シタリ。然ルニ象ハ其指令者ニ向テ大ニ驚怪ス
ルノ状ヲ示セリ。アレキサンドルヘルキユレス
トバウキウストノ最後ノ戦争ニ於テ大ニ敗走
シタル中ホウトールテルス警走セリ。蓋シ多
数ノ象直チニ障前ニ来リタルヲ以テナリ。捕ハ
レタル印土王ホシユスアレキサンドルニ勇氣
ヲ興ヘテ曰ク。若シ騎兵象前ニ於テ隊ヲ執リ之

ヲ碎割ミテ投與セハ衆ハ必ラス退テ野ニ行ク
ヘシト。

再ニ麻六甲ニ設キ及ハントス麻六甲ニハ蘭人
支那人及ヒ味味人土人ニ雜居ス海上三里ニ赤
島アリ是蘭領麻六甲人ノ葡人ヨリ掠奪シタル
所ナリ味味人キユエガヨリ數年前ニ東印度商
會ニ向テ甲兵ヲ送りタリ然レハ能ク之ヲ防拒
シ鎮靜ニ及ヘリキユエガハ蘇門答刺ニアル亞
丁女王ニ屬ス此王近年阿蘭ト結婚セリ然レハ
伯帶比丘領事ハ緊要ナル理由アルヲ以テ未ダ

ジシグ島

之ヲ確信ススキユエガハ麻六甲ヲ距ルイ三十
里ニアルペトノ間ニ無人島アリジシグジシ
グト稱ス堅岸ニ密通ス有名ナル種木ノ產地ナ
リ千六百六十三年東印土商會試ミ之ヲ採リタ
リ此島前ノ入江ニハ魚類極メテ夥シ蓋シ東
西ヲ巡視シタルニ高山ナリ深谷ニ落ルノ水終
ニ海ニ注リナリ印土清水ニ讓ルイナシジシグ
ジシグノ西一里ニ三島アリ蘭人ノ喰人島ト
名ク曾テウエーソア及ヒシケルリング海上雷
雨ニ遇テ此地ニ着岸シ漂民上陸シタル中島人

ノ為ニ残酷ノ終焉ヲ執レリ。又千六百六十二年
五船麻六甲ヲ覆シテ此地ニ到リ海濱ニ吹上ケ
ラレタル荷物ヲ貯藏セシトスル中土人屍体ノ
埋葬セサル者アルヲ見ル是ニ於テ喰人島タル
ヲ知レリ。其後麻六甲航行中破損船ヲ修理ス
ルアリ。

又東印土商會ハソソバタムニ於テ歐洲産品ノ
州日本箱銀及ヒ銅ヲ貿易セリ一大地ナリモ
レニ住スル所ナリ商業盛ナリ大船ノ綱ノ樹
皮ヲ編ム所ナリ。ベレアカト内ニモ巨商ト

異

リ蘭人市ニ接シテ一城ヲ構フ此城ニ大砲十六
門ヲ備フ曾テ土人ノ襲フ所トナル撃テ之ヲ退
ク後東印土商會ノ支揮ニ從屬スル所トナレリ
バレアカトノ舟ハカタマルハト稱ス四圓水
ヲ集成スルナリ。舟士水中ニ坐シ楫ヲ運轉シテ
之ヲ進ム進行迅速ナリ楫ハ中間狭ク両端廣シ
王ニ陸地ニ住シ大モゴルニ屬ス城上非常ノ高
檣ヲ立リ其端覆アリ長廿五百尺ニテ風ニ閃ク
故ニ海上八里外ヨリ之ヲ認ムヘシ
千六百二十三年一月三日アハシクーンスマラ

ハル岸ニアヰ有名ナルコシノ街ヲ押領セリ。自
後南高停苗スルヲ得タリ。市ヲ通シテ一河ア
リ深十六尺。コシノ島ハ市街整整タリ。マラバル
岸ニハ上好龍涎香ヲ産ヌ。暴風雨ニハ堤ニ打上
ク強壯ナルマラバル人危ヲ侵シテ之ヲ拾フ。

蘭使日本紀行 大尾

